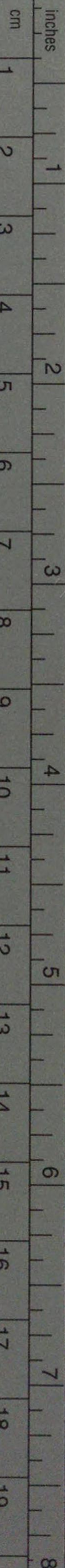


Kodak Gray Scale



© Kodak, 2007 TM: Kodak

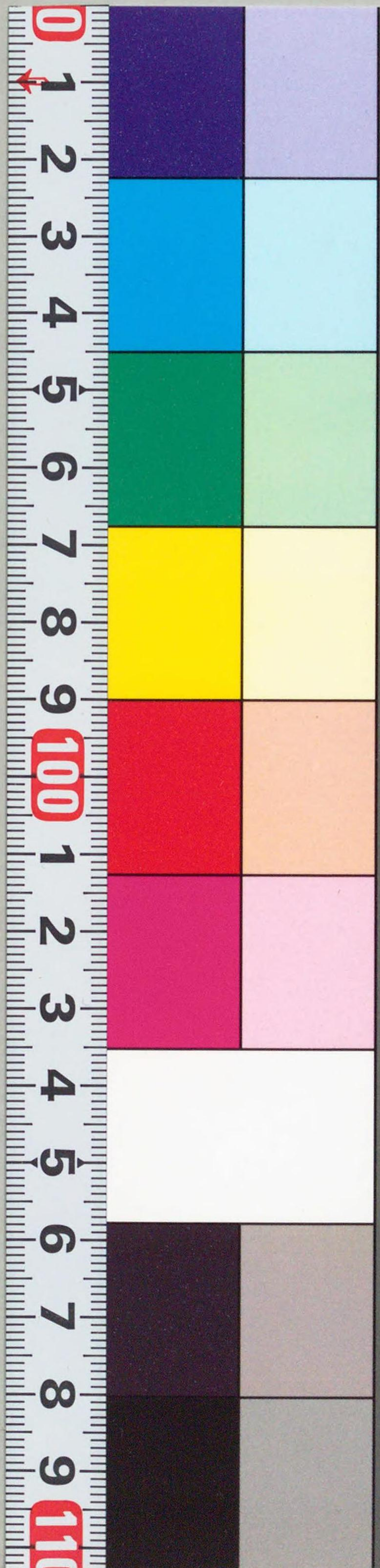
A 1 2 3 4 5 6 M 8 9 10 11 12 13 14 15 B 17 18 19



Kodak Color Control Patches

© Kodak, 2007 TM: Kodak

Blue Cyan Green Yellow Red Magenta White 3/Color Black



(公報附錄)

資料第五輯

昭和十三年一月

BZ-8-3



1200500825269

對支
策參
考資
料目
錄其
ノ一

衆議院調查部

BZ
8
3

一、本資料は入館、所蔵、文庫事務が物置してから、即ち昭和十二年八月より昭和十二年十二月に至る間に発行せられた文庫問題に関する單行本の目録及び雑誌の主要記事の目録を集めて分類したものである。

二、本資料に収録した調査資料第三輯「北支支那問題」に関する論文摘要は最近数箇月間に、單行本、雑誌、新聞等において發表された北支支那問題に関する主要なる論文の要旨を摘録して集めたもので、原文の値は本資料に添いついて、もし引用等必要に際しては、その頁は調査部が負ふものである。

三、本資料は調査部が負ふものである。



I 種
W



1200500825269

82
8
3

對支 凡 例

一、本資料は大體、昨年、支那事變が勃發してから、即ち昭和十二年八月より昭和十二年十二月に至る間に發刊せられた支那問題に關する單行本の目録及び雜誌の主要記事の目録を集めて分類したものである。

二、猶曩に發刊した調査資料第三輯「北支資源開發に關する論文摘要」は最近數箇月間に、單行本、雜誌、新聞等に於て發表された北支資源開發に關する主要なる論文の要旨を摘録して集めたもので、原文の儘ではない。従つて、もし用語意味等に適確を缺く個處があるとするれば、その責は調査部が負ふものであることを特にお斷りして置く。

外交
軍事、國防關係
財政、經濟關係
文化、思想關係
交通、通信關係
人物、民族
歷史、地理關係



この調査報告は、調査の結果を述べたものである。

この調査報告は、調査の結果を述べたものである。

この調査報告は、調査の結果を述べたものである。

この調査報告は、調査の結果を述べたものである。

この調査報告は、調査の結果を述べたものである。

この調査報告は、調査の結果を述べたものである。

凡例

對支政策參考資料目錄 (自昭和十二年八月至昭和十二年十二月)

單行本

政治關係	一頁
外交關係	一五
軍事、國防關係	一七
財政、經濟關係	二三
文化、思想關係	二七
重要雜誌記事		
政治關係	二九
外交關係	四五
軍事、國防關係	六一
財政、經濟關係	七三
文化、思想關係	一〇一
交通、通信關係	一〇三
人物評論	一〇五
歴史、地理關係	一一一

淵奥、此野關聯	一〇一
人、此野關聯	一〇二
交、此野關聯	一〇三
文、此野關聯	一〇四
根、此野關聯	一〇五
軍事、此野關聯	一〇六
交、此野關聯	一〇七
文、此野關聯	一〇八
根、此野關聯	一〇九
軍事、此野關聯	一一〇
交、此野關聯	一一一
文、此野關聯	一一二
根、此野關聯	一一三
軍事、此野關聯	一一四
交、此野關聯	一一五
文、此野關聯	一一六
根、此野關聯	一一七
軍事、此野關聯	一一八
交、此野關聯	一一九
文、此野關聯	一二〇
根、此野關聯	一二一
軍事、此野關聯	一二二
交、此野關聯	一二三
文、此野關聯	一二四
根、此野關聯	一二五
軍事、此野關聯	一二六
交、此野關聯	一二七
文、此野關聯	一二八
根、此野關聯	一二九
軍事、此野關聯	一三〇
交、此野關聯	一三一
文、此野關聯	一三二
根、此野關聯	一三三
軍事、此野關聯	一三四
交、此野關聯	一三五
文、此野關聯	一三六
根、此野關聯	一三七
軍事、此野關聯	一三八
交、此野關聯	一三九
文、此野關聯	一四〇
根、此野關聯	一四一
軍事、此野關聯	一四二
交、此野關聯	一四三
文、此野關聯	一四四
根、此野關聯	一四五
軍事、此野關聯	一四六
交、此野關聯	一四七
文、此野關聯	一四八
根、此野關聯	一四九
軍事、此野關聯	一五〇
交、此野關聯	一五一
文、此野關聯	一五二
根、此野關聯	一五三
軍事、此野關聯	一五四
交、此野關聯	一五五
文、此野關聯	一五六
根、此野關聯	一五七
軍事、此野關聯	一五八
交、此野關聯	一五九
文、此野關聯	一六〇
根、此野關聯	一六一
軍事、此野關聯	一六二
交、此野關聯	一六三
文、此野關聯	一六四
根、此野關聯	一六五
軍事、此野關聯	一六六
交、此野關聯	一六七
文、此野關聯	一六八
根、此野關聯	一六九
軍事、此野關聯	一七〇
交、此野關聯	一七一
文、此野關聯	一七二
根、此野關聯	一七三
軍事、此野關聯	一七四
交、此野關聯	一七五
文、此野關聯	一七六
根、此野關聯	一七七
軍事、此野關聯	一七八
交、此野關聯	一七九
文、此野關聯	一八〇
根、此野關聯	一八一
軍事、此野關聯	一八二
交、此野關聯	一八三
文、此野關聯	一八四
根、此野關聯	一八五
軍事、此野關聯	一八六
交、此野關聯	一八七
文、此野關聯	一八八
根、此野關聯	一八九
軍事、此野關聯	一九〇
交、此野關聯	一九一
文、此野關聯	一九二
根、此野關聯	一九三
軍事、此野關聯	一九四
交、此野關聯	一九五
文、此野關聯	一九六
根、此野關聯	一九七
軍事、此野關聯	一九八
交、此野關聯	一九九
文、此野關聯	二〇〇

支那支那策々々資株目錄 (自昭和十一年一月一日起至二十一年一月三十一日止)

單行本

政治關係

今日の支那	小倉章宏	東興書社	三、八月刊
支那の全貌	井上謙吉	信正社	〃
爆彈北支を語る	波多野乾一	改命造社	〃
抗日支那の真相	平野馨編	平野書房	〃
現代支那の政治と人物	波多野乾一	改命造社	〃
北支事變と支那の真相	井上謙吉	改命造社	〃
支那問題總論(支那問題體系1)	藤枝丈夫	叢文閣	一三、四月刊
解體期支那の政治と經濟	原野	泰山山房	〃
新支那の誕生	太田宇之助	日本評論社	一三、三月刊
支那現下の政治動向	田中忠夫	學問藝文社	〃
支那の再認識	長野朗	大都書房	〃

政治關係

最新支那要覽

北支の政情

冀察、冀東問題

冀東總覽

中國に於ける外國人の地位

日支事變と次に來るもの

國際政治から觀た日支の抗爭

赤裸の支那

支那は生存し得るか

抗日支那の解剖

嵐に立つ支那

抗日論—如何にして抗日戰は準備されたか—

華北人民自治會

南京政府の正體

東亞研究會 二、九月刊

支那問題研究所 //

日支問題研究會 一、八月刊

東洋事情研究會 二、九月刊

東京堂 一、九月刊

新潮社 //

立命館出版部 //

三笠書房 //

太田社 //

教材社 //

日本評論社 //

亞里書店 //

橋書店 //

國策樹立協會 //

新日本同盟 //

非賣

赤色アジアか防共アジアか

對支政策の本流

蔣政權はどうなる—支那は赤化するか—

事變で變化せる支那の内情

日支事變の解決策

東日時局情報第七輯

支那—機構と人物

支那の將來と我帝國の使命

日本は支那を如何する

國際關係から見た支那(支那問題叢書)

日支事變をめぐる世界の動き

支那事變と列國の論調(第二輯)

次に支那を支配するもの

中保與作 ダイヤモンド社 二、一〇月刊

中山優生社 //

吉岡文六 第二國民會 //

松本忠雄 教材社 //

葦津耕次郎 葦津耕次郎家 //

東日毎日編 大東 //

大齋藤剛 太陽閣 //

中野正剛 育生社 //

尾崎秀實 第二國民會 //

稻原勝治 高山書院 //

姫野徳一 日支問題研究會 //

松本忠雄 日支問題研究會 //

村岡文六 高山書院 //

吉岡文六 高山書院 //

長谷川乾 高山書院 //

波多野乾 高山書院 //

政治關係

戦後の施策と陸軍の動向—軍部の回答書—

支那事變解決論

戦捷に續くもの

時局收拾に關する研究要綱(試案)

北支對策に關する研究資料

支那に於ける國民主義運動と抗日運動の全貌

日支事變の史的意義と支那再建の思想的基調

占據したる土地を戦場の兵士に與へよ

支那に於けるコミンテルンの活動

東洋の平和は亞細亞モンロー主義にあり

大陸作戦論

日支事變と次に來るもの

支那を屈するには

支那の知識(時局知識シリーズ)

動く北支

四

大岩多嘉雄 高山書院 一三二月刊

肥田琢司 信正社 //

國際情報研究會編 教材社 //

半澤玉城 日本外交協會 //

國策研究會 國策研究會 //

內閣情報部 內閣情報部 //

中谷武世 大亞細亞協會 //

西岡竹次郎 西岡竹次郎家 //

內閣情報部 內閣情報部 //

金子堅太郎 皇輝會 //

小林知治 高山書院 一三、八月刊

武藤貞一 新潮社 一三、九月刊

石丸藤太 偕成社 //

清澤高信 青年書房 一三、八月刊

室伏高信 第二國民會編 第二國民會出版部 //

謎の國、支那の全貌

朝日東亞年報(昭和十二年版)

日支遂に敵か

支那問題の基礎知識

躍進支那を診る(中支から南支へ)

排外支那の解剖

支那の抗日記録

日支共存への道

百千萬民衆に訴ふ

日本國民に告ぐ

風雲を孕む北滿北支に旅して

北支事變に際し國民に告ぐ

次代の青年に懇ふ

風雲の北支北滿に旅して

北支中心に捲起るアヂアの嵐

政治關係

室伏高信 大東出版社 //

朝日新聞社編 朝日新聞社 //

東亞問題調査會編 第一出版社 一三、七月刊

水上茂編 第一出版社 一三、七月刊

謝國城 哲新刀閣 一三、六月刊

神田正雄 海外社 一三、五月刊

貴島外交研究室 國際經濟研究所 //

姫野徳一 日支問題研究會 一三、三月刊

長野高朗 坂上書院 一三、七月刊

蔣共介三石 河出書房 一三、六月刊

佐藤洋之助 動く日本社 一三、八月刊

杉山元 日本書房 //

柴尾親弘 動く日本社 //

山路久三郎 大阪時事新報社 //

東洋協會調查部 東洋協會 //

下村敬三郎 帝國協會本部 非賣

五

北支事變の概要 2

北支事變の話 3

北支事變と王明の新論文 4

北支事變の後に來るもの

東洋平和の攪亂者蒋介石を葬れ

蒋介石政權内部に對立する諸勢力

蒋介石の動向と抗日秘密結社を暴く

ユダヤの陰謀に踊る蒋介石

見よ天馬空を行く現代の革命兒殷汝耕を

血迷へる支那遂に墓穴を掘るか

颯られた日支事變と中國共產黨の蠢動

挑戰支那の真相

對日抗戰か現地協定承認かチレンマに陥る南京政府

支那は日本と何處まで戦ふつもりか

獨裁政權に焦る蒋介石

北支に躍るスパイ戰

戰爭は不可避だスパイはどう活躍するか

戰爭はいつ始まるか

北支事變の本質と其對策

東日時局情報第五輯

ソ聯の現状とその批判

東日時局情報第六輯

ソ聯の日本研究

謎のロシア—新舊ロシアの全貌—

事變の知識(時局知識シリーズ5)

支那事變北支の卷

既定の方針日本の大陸政策

政治關係

陸軍省新聞班 陸軍省新聞班 三、八月刊

陸軍省新聞班 陸軍省新聞班

陸軍省新聞班 陸軍省新聞班

森田良幸 十八日書店

伊藤秀雄 雄飛閣

水島齊 國際思想研究會

石井三郎 皇道義會出版部

長尾高義 日通書社

八幡博堂 開南俱樂部

清河政雄 教育材料社

大野慎 東京パンフレット社

宗南洲 日滿聯合通信社

龜岡豐三 東京朝野新聞出版部

小松孝彰 森田書房

前駐支某武官

和田半一郎 日本政治經濟研究所

池村新一郎 大文字書院

南都參次 播州國防研究會本部

仲木貞一 東京朝野新聞出版部

池村新三郎 大文字書院

芦田均 昭和書房

杉浦武雄 岩田潔家

東京日日編 東京日日編

大阪日日編 大阪日日編

清澤洵 東洋經濟新報社

東京日日編 東京日日編

大阪日日編 大阪日日編

ソヴェート研究會編 高山書院

昇曙夢 大東出版社

室伏高信 青年書房

清澤洵 青年書房

山本實彦 改造社

花岡淳二 パンフレット文藝社

對支大戰をせねばならぬ理由と國民の覺悟

戰線に訪ねて國民に懇ふ

日本はどうなる？ 天佑！ 北支事變

支那事變と我等の覺悟

北支の重要性と其の意義

日本を狙ふソ聯の動き

ソ支密約とその後に來るもの

戰火遂にロシヤに飛ぶか

日ソ關係とソ聯陰謀事件の真相探求

敗慘支那はロシヤに何う喰はれるか

支那を躍らす人民戰線極東攪亂の正體を曝く

南京政府の正體

斷崖に立つ支那

何故支那と戰ふか

支那事變と世界戰爭の危機

和田 龜 治

修養團東京聯合會

二、三、九月刊

加藤 久米 四郎

東京朝野新聞出版社

〃

小林 一 三

ニユトピックス社

〃

東邦國策同志會

東邦國策同志會

〃

石 井 嘉 穂

世界經濟研究會

〃

關 根 傳 二

東京朝野新聞出版社

〃二〇日刊

杉 山 捷 三

皇 文 社

〃

前 田 義 雄

東京朝野新聞出版部

〃二、五、日刊

水 島 齊

國際思想研究所

〃

稻 葉 四 郎

教 材 社

〃

宿 田 倍 達

思想問題調査會

〃

尾 崎 秀 實

新日本同盟

〃

佐 古 文 男

今日の問題社

〃

宗 形 金 風

創 文 社

〃

長 島 隆 二

共 盟 閣

〃

支那赤化の危機迫る

上海大山事件の真相他二篇

どこまで行くか日支事變

支那事變の社會主義運動へ與へる影響

支那は日本に何を爲さんとするか

北支事變經過の概要—特輯號—

遂に戰はざる可からざるなり

支那の總動員は斯うだ對日戰の本據を衝く

中國四億五千萬民衆に告ぐ

支那義和團の再發、上海はサラミスである

支那を動かす人々蔣權力の中心人物は誰々か

抗日政權崩潰の前夜

極東は近づく

世界の革命的動亂と秘密結社の活動

戰ひの目標と收局

八 幡 博 堂

開 南 俱 樂 部

〃

西 村 一 郎

播州國防研究會本部

〃

前 田 義 雄

東京朝野新聞出版部

〃

小 島 喜 一 郎

小島政治經濟研究所

〃

水 島 齊

國際思想研究所

〃

陸軍省新聞班

陸軍省新聞班

〃

卜 部 直 輔

東風閣東京事務所

〃

濱 野 昌 雄

大 東 情 報 社

〃

五 十 嵐 隆

國際日本協會

〃

竹 越 與 三 郎

竹越與三郎家

〃二〇日刊 非賣

天 沖 郷 廟

今日の問題社

〃

宮 本 善 隆

極東事情研究所

〃

テイルトマン

時局評論社

〃

山 下 主 計

北海道龍門會

〃

松 永安左衛門

ダイヤモンド社

〃二、六、日刊 非賣

極東大戰の考察

最近支那の動向

動亂の支那と將來

ソ聯の現状とその批判

支那讀本

支那事變の理由と國民の覺悟

時局收拾に關する研究要綱

支那工作雜言

列國の偽裝平和政策と日本の大陸黎明運動

敗戦主義を粉碎す

極東の陰謀戰

支那征討の目的と覺悟

日支事變より日ソ戰爭へ

ソ聯は今何を劃策してゐるか

支那事變ロシヤは來るか

鈴木 一馬

東邦事情研究會 三、九月刊

神田 正雄

京都經濟會 非賣

清水 芳太郎

清水芳太郎先生後援會本部

清 澤 洌

東洋經濟新報社

時局通信社

愛知時局通信社

和田 龜治

國體宣揚會 一三〇月刊 非賣

平 澤 玉城

日本外交協會

村 松 道司

舉 國 社

内 藤 民治

國際日本協會 非賣

谷 口 雅春

光明思想普及會

鳥 山 景三

東京朝野新聞出版部 非賣

里 見 岸 雄

日本國體學會

那 須 有 雄

教 材 社

三 島 康 夫

第 百 書 房

大 石 利 德

高知片桐書店 非賣

スタハーノフ運動の研究

事變によつて何處まで支那の内情は變つたか

暴虐支那の正體

蔣政權の次に來るもの

支那事變について

赤化しつつ亡び行く支那

世界戦争の火蓋を切るもの

親日國民政府再建か共産政府の樹立なるか

米國を動かす猶太の勢力

米國は日本の敵か味方か?

真相ソ聯

コミンテルンは挑戦する

支那

支那名物便衣隊の正體を衝く

アジア再建の聖戰

相馬 一郎

臯 月 會

松 本 忠 雄

大文學書院

笠 井 光 司

内外出版社

大 木 喬 夫

大文學書院

林 群 喜

國民精神總動員中央聯盟

龜 岡 豐 二

東京朝野新聞出版部

杉 山 捷 三

皇 文 社

上 村 文 三

教 材 社

柳 沼 七 郎

國際政經學會

貴 島 桃 隆

國際經濟研究所

新 居 格 譯

豐 文 書 院 三、二月刊

高 谷 覺 藏

大東出版社

大 橋 哲 哉 譯

白 軍 揚 社

寶 來 正 芳

良 榮 堂

内閣情報部

内閣情報部

アジア再建の義戦

今次事變の意義

支那事變經過の概要特輯二號

支那事變で英米の肚を覗く

外國權威紙の觀た支那事變見透し

世界の將來と全體主義的戦争

激化する日ソの對勢

日英戦争の危機

英、猶太財閥の陰謀

抗日の元兇英國を衝く

獨、伊果して日本の味方か

日本はいつソ聯を撃つべきか

ソ聯邦の現状

嵐を時くソ聯共產主義の禍亂

ソ聯邦新選舉法と最高會議選舉

永井柳太郎

内閣情報部

陸軍省新聞班

山下駿一郎

澁川喬

水島齋

杉山明

大野慎

杉山明

原田政治

黒岩貞雄

松尾友太

茂森唯士

吉森悟市

鷹取武夫

國民精神總動員中央聯盟

内閣情報部

陸軍省新聞班

東京パンフレット社

教材社

國際思想研究所

交通展望社

大東京出版社

交通展望社

大中社出版部

パンフレット文藝社

日本書房

今日の問題社

經綸會出版部

阜月會

非賣

非賣

最近に於けるソ聯邦事情

ソ聯旬報

敗戦の支那何處へ行く

支那に於けるコミンテルンの活動

日本は支那をどうする

これが支那だ

支那を支配する三人の女

支那の中堅を衝く

これだけは覺悟せよ事變後の日本は

どうなる

蒙古帝國の誕生

危機は迫る極東の風雲

何故の支那事變

今次事變の意義

戦時常識

流言デマの正體

大阪府情報委員會

吉村忠三

池松重行

内閣情報部

野原完二郎

林貞四郎

寺田幸夫

小松謙堂

上村文三

野田喜博

山本實

内閣情報部

能勢久雄

内閣情報部

大阪府情報委員會

大靖協會

皇道聯盟本部

内閣情報部

パンフレット文藝社

北海國民社

立正書院

白鷗社

大文學書院

森田書房

東京パンフレット社

思想國防協會

一號社

内閣情報部

領土資源の再分配問題

松本 悟朗

日本協會出版部

二、二月刊

領土資源の再分配問題
政治關係
領土資源の再分配問題
政治關係
領土資源の再分配問題
政治關係

松本 悟朗
日本協會出版部
二、二月刊

外交關係

日支の動向と世界の運命

入著 著者 書發 發行所 卷號 月日

クルト・ヘッセ

二、二月刊

支那をめぐる日、ソ、英、米

半田 弘平

今日の問題社

二、二月刊

危機線上の日支

東京日日新聞社編

東京日日新聞社

二、九月刊

東亞の風雲急激日本を繞る國際情勢

安藤 富士雄

大日本精神宣揚會

二、八月刊、非賣

日獨防共協定の意義

松岡 洋右

第一出版社

二、九月刊

歐米の動きと支那事變

鶴見 三三

岡倉書房

〃

支那事變と列國の論調（第一輯）

姫野 徳一

岩松堂

〃

支那事變と國際中立法の正體

大久保 文雄

森田書房

〃

北支事變の真相と日支關係諸條約

高田 功

亞細亞研究會

〃

米國の新中立法を批判して日支紛争との關係に及ぶ

日本外交協會

日本外交協會

〃

北支事變の推移と列強の態度

塚本 義隆

世界經濟研究會

〃

日支全面衝突と列強の動向

片桐 勝昌

日本書房

〃

外交關係

國際事情—續篇九
 戰爭と宣傳
 日本を脅かす宣傳戰
 ツ支不可侵條約に就て
 列強と支那
 支那事變をめぐる列國の策動を衝く
 極東を覗ふ英國の魔手
 日米外交はどうなる
 國際時事解説
 反日デマに踊る列國輿論
 列強は果して支那事變に干渉し得るか
 列國の干渉と日支事變
 英國の支那侵略とその制日政策
 九國條約無効

外交關係

外務省情報部 良
 田中 義 豐 宣傳研究所 三、〇月刊
 小松 孝 彰 森 本 田 書 房
 西 村 一 郎 播 州 國 防 研 究 會 本 部
 小 野 三 郎 大 東 情 報 社
 山 本 み の る 東 京 パ ン フ レ ッ ト 社
 鷹 橋 聖 一 パ ン フ レ ッ ト 文 藝 社
 外務省情報部編 三 日 笠 新 書 房
 内外資料協會編 高 京 山 日 書 院
 下 村 敬 三 郎 帝 國 在 鄉 軍 人 會 本 部
 兵庫縣工業會 兵 庫 縣 工 業 會
 八 幡 博 堂 東 亞 協 會
 蜷 川 新 國 民 文 化 協 會

軍事、國防關係

支那の軍備と其の性質
 支那の對日作戰計畫
 在支帝國海軍の全貌
 今次事變と帝國海軍の行動
 支那事變と我が海軍
 上海戦線報告書
 支那事變と無敵皇軍
 支那事變と帝國海軍
 支那事變に於ける帝國海軍の行動と國際法
 南京と空の殲滅的空中戰
 蒙古に躍る我義勇軍
 支那を毒するユダヤ系英國人

軍事、國防關係

南 都 參 次 播 州 國 防 研 究 會 本 部 三、八月刊、非賣
 中 山 正 男 中 山 正 男 家
 青 木 潔 青 木 潔 家
 海軍軍事普及部 國民精神總動員中央聯盟
 梅 崎 卯 之 助 今 日 の 問 題 一、三〇月刊
 梅 原 一 雄 日 本 歷 史 研 究 會
 宇 都 宮 謙 海 軍 協 會 群 馬 縣 支 部
 宇 佐 川 知 義 東 京 朝 日 新 聞 出 版 部
 仲 本 貞 一 東 京 朝 日 新 聞 出 版 部

毒蛇のような支那兵	帝國軍事協會編	東京朝日新聞出版部	一三、二、パンフレット
支那の軍備と抗日作戰	成 木田 篤	大阪毎日新聞社	一三、九月刊
赤軍は嘲笑ふ	國際情勢研究會編	太 陽 閣	一三、八月刊
戦争の知識	清 澤 高 洵編	青 年 書 房	一三、九月刊
戦争	武 藤 貞 一	宇佐美出版事務所	一二、二月刊
戦争論	理 想 社 編	理 想 社	一二、九月刊
戦争論	フオツシユ	山 本 の 書 店	一〇、四月刊
戦争論(岩波文庫、上下二卷)	伊奈重誠 譯	岩 波 書 店	一八、一月刊
戦争思想の研究	クラウゼヴィッツ	馬 込 健 之 助 譯	一〇、六月刊
戦争と日本精神の倫理	松 下 芳 男	學 而 書 院	一三、九月刊
空中戦争論	谷 外 口 雅 春	光 明 思 想 普 及 會	一三、八月刊
戦争と經濟	有 澤 廣 己	日 本 評 論 社	一三、八月刊
戦争と戦費	齋 藤 直 幹	日 本 評 論 社	一三、八月刊
戦争、財閥、軍需工業	梅 井 義 雄	東 洋 經 濟 新 報	〃
戦争經濟讀本	齋 藤 直 幹	今 日 の 問 題 社	一三、三月刊

軍事 國防關係

戦時産業施設考	小 濱 重 雄	岩 田 松 堂	〃
國防經濟學	小 山 充 毅	有 朋 堂	一三、一月刊
思想戦と宣傳	神 田 孝 一	橘 書 店	一三、七月刊
近代戦とプロバガンダ	小 松 會 孝 彰	春 秋 社	一三、三月刊
現代の陸軍	伊 藤 政 之 助	大 日 本 圖 書 株 式 會 社	一二、五月刊
現代の海軍	匝 瑳 胤 次	〃	〃
われ等の空軍	大 場 彌 平	講 談 社	一三、六月刊
世界の見た日本の陸海軍	國際狀勢研究會	太 陽 閣	〃
露國陸軍の研究	澤 邊 哲 彦	偕 行 社	一三、八月刊
國防論	岸 山 熊 太 郎	大 日 本 圖 書 株 式 會 社	一二、五月刊
國防學概論	佐 藤 六 平	南 光 社	〃
國防の立場から	池 崎 忠 孝	昭 森 社	一二、二月刊
空 襲	片 岡 稔	ダ イ ヤ モ ン ド 社	一三、九月刊
戦慄！空軍	東京日日新聞社編	東京日日新聞社	〃
防空讀本	大 場 彌 平	偕 行 社	〃

國民防毒讀本

支那の長期國防計畫

英國敢へて挑戦するか

北支事變戰鬪詳報

通州兵變の真相

土肥原師團長は語る
極東に於ける國際情勢の變化と國防

充實の急務

兵器の讀本

海軍讀本

空中戰

支那事變と世界戰爭の危機

日支戰爭より日ソ戰爭へ

支那當面の國防作戰計畫

航空日本の建設

極東の陰謀戰

スパイ戰線を衝く

野口啓助 大日本化學研究所 二、九月刊

謝日國 高山書院 //

池崎忠孝 第一出版社 二、三〇月刊

清河政雄 今日の問題社 二、三、八月刊

安藤同盟特派員 森田書房 //

三部東三郎 群馬縣佛教聯合保護會出版部 //

青木保 日本評論社 二、三〇月刊

阿部信夫 //

大場彌平 太陽閣 //

長島隆二 共盟閣 //

茂森唯士 高山書院 //

東洋協會調查部 東洋協會 二、三、九月刊、非賣

水野甚次郎 吳港新報社 二、三〇月刊

鳥山景三 東京朝野新聞出版部 //

尾瀨敬止 森田書房 //

空中襲撃に對する國民の準備

北支戰を現地に觀る

ソ聯の廣義國防

危機一發日ソ開戰愈、近し

次に來るべき問題ソ滿國境を廻りて

日支事變と次の日ソ戰爭

日本を狙ふソ聯の動き

ソ聯は日本に挑戦するか

支那事變大觀

支那に於ける國防と新聞事業の統制

國民防空讀本

支那事變と我が海軍

太平洋問題と帝國海軍近代國防に就て

大空軍の建設へ

化學兵器の理論と實際

岸山熊太郎 亞細亞研究會 //

神田孝一 今日の問題社 //

水島齊 國際思想研究所 //

鷹橋聖一 パンフレット文藝社 //

眞鍋儀十 春秋書院 //

神田計造 新文社 //

關根傳二 東京朝野新聞出版部 //

吉村忠三 日本講演通信社 //

刺賀庄四郎 支那事變大觀刊行會 //

海軍省軍事普及部 海軍省軍事普及部 //

波多越與一 軍事教育社出版部 //

梅崎卯之助 國民精神總動員中央聯盟 //

梅崎卯之助 健國講演會 //

大久保弘一 健國講演會 //

水野甚次郎 吳港新報社 //

中村隆壽 理化學書院 //

戦争と科學

この海空軍

敵機來らば

防護教本

スパイ撲滅讀本

第二次世界大戦とスパイ

支那軍の正しき認識

近代戦と思想宣傳戦

近代戦と國家總動員

防諜

松平道雄

日本評論社

三、二月刊

古澤磯次郎

今日の問題社

〃

高橋常吉

新潮社

〃

松本喜代美

診断と治療社

〃

R.W.ロウアン

金江出版堂

〃

和田篤憲

内閣情報部

〃

内閣情報部

内閣情報部

〃

林銑十郎

東京パンフレット社

〃

小野崎省三

防諜聯盟事業部

〃

財政、經濟關係

北支通覽

太平洋に於ける國際經濟關係

北支事變と財政經濟政策

最近の支那經濟情勢に就て

株式不安と北支事變の見透し

悪化する日支關係と我が株式金融界

支那事變と特別税の話

北支經濟讀本

支那農村經濟概論

支那財政講話

支那經濟概観(日本産業經濟全書二五)

最新對華經濟資料(第五輯)

財政、經濟關係

東洋事情研究会

東洋事情研究会

三、八月刊

三菱經濟研究所

三菱經濟研究所

〃

龜谷正司

日本經濟政策研究所

〃

岩井光次郎

東京商工會議所

〃

永田耀

世界經濟情報社

〃

飯田清三

今日の問題社

〃

岩花勝

日本稅務研究會

三、九月刊、パンフレット

小島精一

千倉工書房

三、九月刊

薛澤秀夫

叢文閣

〃

孫田懷吉

泰山房

三、二月刊

園田日吉

白本揚出版社

〃

濱田峯太郎

日支問題研究會編

三、二月刊

日支問題研究會編

日支問題研究會編

三三

國際正義より觀たる英國の東洋經濟政策

支那事變と我が財政

支那事變と財政經濟

支那財政講話

事變對策と經濟界の前途

支那事變と其後の日本經濟は如何なるか

事變直前の支那經濟狀態

支那國防經濟の現状

戰爭時の支那財界

北支經濟如何に建設すべきか

山西省の工業發展

滿鮮北支の自動車運輸

支那幣制の研究

支那經濟建設の全貌

列強の戰時經濟政策

若杉浪雄

東亞經濟調査所 二、三〇月刊

松方幸次郎

日本協會出版部 //

太田正孝

新日本同盟 //

孫懷仁

泰山房 //

園田日吉

高崎商工會議所 //

高橋龜吉

新興日本新聞社 //

葛順之助

東洋協會 //

東洋協會調査部

東洋協會 //

吉田政治

ダイヤモンド社 //

小林一三

今日の問題社 //

生島廣治郎

大阪寶文館 //

菊池洋四郎

日刊自動車新聞社 //

飯島幡司

有斐閣 二、三、三月刊

太平洋問題調査部

日本國際協會 //

ブルクシュエパン

育生社 //

白谷忠三

譯著 //

十二年版世界經濟年報 (第三卷)

支那に於ける財政的經濟的統一の狀況に就て

支那の財政はどうなるか

資源北支の展望

支那事變と電力國家管理案への展望

支那經濟讀本

最新對華經濟資料 (全六輯)

在支紡績業の發展とその基礎

支那銀行論

支那歴代親耕親蠶考

支那經濟恐慌論

支那資本機構、財閥政權

支那資本主義論争

支那經濟年報 (第一輯)

南支那に於ける農村問題

財政、經濟關係

外務省調査部編

國際經濟研究所 //

内閣情報部

内閣情報部 //

大西齋

經濟研究會 //

岡田博道

森田書房 //

岡敬一

電氣人社 //

田中漁夫

學藝社 二、三、七月刊

姫野徳一

日支問題研究會 二、二月以降刊

吳承禱

東洋經濟新報社 二、三、六月刊

玉木英夫

叢文閣 二、三、四月刊

農林省米穀局編

日本米穀協會事務所 二、三、三月刊

木村増太郎

改造社 二、三、二月刊

濱田峰太郎

叢文閣 //

内田穰吉

清和書店 //

中國經濟情報社編

白揚社 一、三、一月刊

陳翰三

叢文閣 一、二、三月刊

財政、經濟關係

支那經濟事情講話

東京商工會議所調查部編

森山書店

二二二月刊

支那財政經濟一斑

吉田虎雄

學藝社

二二九月刊

支那工業論

有澤廣己

改造社

〃

戰時海運統制

寺井久信

二里木書店

二二八月刊

北支八省の資源

馬場歙太郎

實業之日本社

二二三月刊

戰爭經濟の知識

清伏高信編

青年書房

二二九月刊

戰時經濟の基礎知識

岩井良太郎

千倉文書房

二二四月刊

支那の經濟事情

中野忠一

東洋經濟評論社

二二六月刊

支那の經濟事情

王鳳

日支問題調査會

二二二月刊

支那の經濟事情

王鳳

日支問題調査會

二二二月刊

支那の經濟事情

王鳳

日支問題調査會

二二二月刊

支那の經濟事情

王鳳

日支問題調査會

二二二月刊

支那の經濟事情

王鳳

日支問題調査會

二二二月刊

支那の經濟事情

王鳳

日支問題調査會

二二二月刊

支那の經濟事情

王鳳

日支問題調査會

二二二月刊

支那の經濟事情

王鳳

日支問題調査會

二二二月刊

文化、思想關係

書

名

著

者

發

行

所

卷號月日

支那原始社會史考

呂振羽

改造社

二二六月刊

支那社會史(前資本主義時代)

早川二郎

白揚社

二二六月刊

支那社會の測量

圓谷弘

有斐閣

二二九月刊

唯物史觀支那史(ソ聯大百科全書)

大橋哲哉

白揚社

二二九月刊

支那の男と女—現代支那の生活相—

後藤朝太郎

大東出版社

二二九月刊

武力戰に勝つても思想戰に負けるな

戰時思想對策委員會

つはもの叢書普及會

二二〇月刊

大陸政策と回教問題

須田正繼

ヤニヤポンモフビ
リ発行所

〃

近代支那社會史

早川二郎

白揚社

二二二月刊

非賣

政治關係

書

名

著

者

誌

名

卷號月日

敢て支那の朝野に訴ふ

高木陸郎

國際知識及評論

九月

憐れむべき支那の自力過信

高木陸郎

實業之世界

〃

殷汝耕と冀東政府

古城胤秀

文藝春秋

〃

冀察新政權への展望

藤枝丈夫

中央公論

〃

冀察と中央

藤枝丈夫

中央公論

〃

冀東政權とそれを繞る日支兩國の立場

東亞經濟調査局

東亞

八月

抗日運動の現段階

藤枝丈夫

中央公論

〃

抗日支那の實體

吉岡文六

文藝春秋

八月臨時

抗日支那の背後にあるもの

村田孜郎

日本評論

〃

抗日人民戦線派のその後

中保興作

〃

〃

抗日戦線と中國共產黨

三島康夫

東大

九月

抗日の成長

島根三吉

日本評論

八月臨時

政治關係

國民政府の正體	橫田 實	日本評論	八月臨時
國民黨共產黨關係史	尾崎 秀實	社會往來	九月
支那を中心とするコミンテルンの對 アジア赤化政策	杉山 謙次	社會往來	九月
支那共產黨最近の動向	田中 香苗	文藝春秋	八月臨時
支那國民に望む	半澤 玉城	外交時報	八月上旬
支那トロツキ派の宣言(支那鬪爭誌)	太田 宇之助	世界知識	八月
支那中央集權の現段階	和知 鷹二	日本評論	八月臨時
支那の現勢と我對支政策	神田 正雄	中央公洋	八月
支那の國家建設	藤枝 丈夫	日本評論	八月臨時
支那農民の現狀	黒田 禮二	文藝春秋	〃
支那膺懲論	神田 正雄	國際知識及評論	八月
支那民族性の再檢討	宮田 光雄	實業之世界	九月
支那民族に與ふ	半澤 玉城	外交時報	八月上旬
事態延引の覺悟を要す	鷺澤 與四二	外交時報	八月
事變後の北支政權に就て			

出兵の意義に徹せよ	中山 優	大亞細亞主義	〃
蔣介石に與ふるの書	荒木 貞夫	文藝春秋	八月臨時
蔣介石の最近の國力充實運動	東亞經濟調查局	東亞	八月
蔣氏の下野を勧告す	(社) 田中 義一	東洋經濟新報	八月(二)
蔣政權の本質と日支提携の可能性	氏 家 操	社會往來	九月
宋哲元と北支政局	上 沼 健吉	外交時報	七月下旬
大陸經綸の根本義	佐々井 一晁	社會往來	九月
對支政策の基礎觀念	澤田 五郎	〃	〃
東亞政局の安定點	蠟 山 政道	ダイヤモンド	八月(三)
中國救國戰線の七人幹部公判記	楊 樹 浦	改造	八月
中國國民に寄す	室 伏 高信	日本評論	八月臨時
南京政權の抗日政策	井 村 薫雄	外交時報	八月下旬
南京政府論	尾崎 秀實	中央公論	九月
日支事變に對する宣言	蔣 介石	改造	八月
日本の對支權益	山 内 保	文藝春秋	八月臨時

再び中國統一化をめぐる諸見解について

北支權益と南京政府の背信

北支事變と抗日運動の前途

北支事變と赤色帝國主義

北支事變後に來るもの

北支事變の根蒂に横はるもの

北支情勢の新發展

北支中央化と冀察政權

北支の學生運動

北支の平和郷建設や如何

北支問題の新段階

蘆山會議の結末

北支那の新局面

共産黨覆滅と新しき支那の誕生

極東インターナショナルへの自覺

玉木英夫 經濟評論 八月

柏木二郎 カレントヒストリ 九月

藤枝丈夫 文藝春秋 八月

(主 張) エコノミスト 八月(三)

眞田武 内外公論 九月

吉岡文六 エコノミスト 七月(三)

村田孜郎 經濟知識 八月

半澤祐一郎 拓殖情報 //

山上正義 日本評論 八月臨時

横田實 世界知識 九月

尾崎秀實 改造 八月

太田宇之助 日本評論 八月臨時

梨本祐平 //

坂西利八郎 現代 //

山崎靖純 評論 //

極東を掩ふ赤色戦線

極東地方に於ける最近の建設状態

國民政府は崩壊するか

支那農村の合作社運動

支那國民黨の歴史

支那を操る宋の一族

支那的國家形態の特異性

支那の抗日團體を解剖す

支那最近の行政區分

支那事變の將來

事變後の對支政策と更生支那の進むべき道

蒋介石と宣傳

蒋介石に與ふるの書

蒋介石は没落か

蒋介石は何處へ行く

中保典作 中央公論 //

西村雄三 アジア //

吉岡文六 文藝春秋 九月臨時

野中茂 帝國農會報 九月

重松俊章 文部時報 九月(三)

ソコルスキー 中央公論 一〇月

長谷川如是閑 改造 //

國松久彌 支那時報 九月

大久保弘一 地理學 一〇月

大岩英雄 文藝春秋 九月臨時

中原孝治 日本經濟新報 九月上旬

宮崎龍介 アジア //

吉岡文六 中央公論 一〇月

薄田惠 世界知識 //

薄田惠 日本及日本人 九月

赤色帝國主義論

「ソヴェート支那」への動き

ソ支合作は何を狙ふか?

東亞の西班牙化を救へ

南京政府の日本認識の錯誤

南方政策の基調

日支關係打開の鍵

日支關係の大道

日支事變と抗日結社

日支事變と支那の將來

日支事變とソ聯及支那

日支事變の根本的解決

日支事變の將來

敗戦支那の支柱

平津地方肅清より北支明朗化へ

嘉治隆 一 中本央 日本論 一〇月

下條雄三 改 果 賦 造 //

茂森唯士 經濟知識 //

(時 思 論) 外交時報 九月下旬

吉岡文六 // 本論 九月下旬

新 八 明 正 道 // 本論 九月下旬

フ レ イ ヌ 日 本 思 評 論 一〇月

橋 本 增 吉 大 亞 細 亞 主 義 九月

鳥 羽 壯 五 郎 時 潮 //

(時 論) 外交時報 九月上旬

重 論 評 時 報 論 一〇月

川 島 浪 速 日 本 及 日 本 人 九月

長 野 朝 大 亞 細 亞 主 義 //

永 戸 政 治 エ コ ノ ミ ス ト 九月(三)

(調 査 部) 支 那 時 報 九月

平津治安維持會の活動

北支事變と共產黨

北支事變と抗日意識

北支事變と對ソ認識の重大性

北支政局進展の動向

北支問題の清算

防共日本と容共支那の戦ひ

滿洲事變六周年と北支事變

我が對南支工作の一考察

亞細亞民族結合への大道

內蒙古の動向と蒙古問題

英國の支那侵略史

華北新政權を繞る人々

危殆に瀕する支那

岐路に立つ山西、山東

東 城 雄 治 週 間 朝 日 九月(三)

村 田 孜 郎 外 交 時 主 報 九月上旬

西 澤 英 一 支 那 九月

岡 野 秀 作 ア 支 那 //

梨 本 祐 平 改 造 一〇月

鹿 島 守 之 助 外 交 時 報 九月下旬

田 中 香 苗 月 刊 時 報 一〇月

金 崎 賢 外 交 時 報 九月下旬

吳 萬 賢 新 興 經 濟 九月

仁 田 四 朗 社 會 往 來 //

後 藤 富 男 東 大 陸 二月

丸 山 幹 治 文 藝 春 秋 一〇月臨時

李 振 南 改 造 二月

大 西 齊 外 三 氏 中 央 公 論 一〇月臨時

梨 本 祐 平 改 造 二月

究極は日支握手	山本	デ・ステファニ	支那時報	二月	
來るべき新支那		橋本登美三郎	中央公論	二月臨時	
苦惱する蔣介石		宮崎世龍	改造	〃	
建設期に入る北支を行く		牧村宏	世界知識	二月	
國共再婚工作小史		中保與作	外交時報	二月下旬	
支那を救ふものへの大旗		安岡正篤	中央公論	二月臨時	
支那を北支をどうすべきか		井上謙吉外四氏	事業之日本	二月	
支那側の事變對策如何		(時)	外交時報	二月上旬	
支那共産黨二十年史		(調)	中查部	大亞細亞主義	二月
支那共産黨の内紛		平竹傳三	世界知識	二月	
支那共産運動の二十年		東本輝彦	文藝春秋	二月臨時	
支那事變を如何に意識する		杉森孝次郎	日本評論	二月	
支那事變對策		加藤政之助	東洋	二月	
支那事變と大亞細亞主義		村川堅固	大亞細亞主義	〃	
支那事變と東洋平和の確立		矢野仁一	〃	〃	

支那事變と日本の最終目的		乾田精末	改造	二月
支那事變の史的意義と北支の建設		中谷武也	文藝春秋	二月臨時
支那に於ける英國罪惡史話		宗像史郎	中央公論	二月
支那に於ける合作社會運動に就て		芝	社會政策時報	二月
支那の財政危機と極東の政局		小林幾次郎	東本日本洋	〃
支那の將來と西力東漸の認識		中山香優	〃	〃
支那は何をなすべきか		宋慶齡	日本評論	二月
支那は赤化するか		吉岡文六外三氏	改造	〃
支那は果して赤化するか		尾崎三秀實	實業之日本	二月下旬
支那民族論		米内山庸夫	支那	二月
事變を如何に解決するか		末廣大重雄	日本評論	二月
事變下支那の全貌		松本忠雄	中央公論	二月臨時
事變の永續不可避とその對策		直海善三	外交時報	二月下旬
時局と對支認識		尾崎秀實	改造	二月臨時
新支那建設論		小島精一外二氏	東大	二月

周恩來の地位

蔣介石はなぜ頑張つてゐる

蔣政權沒落と支那分裂必至

蔣政權の脆弱點とロシア

政治工作下の北支(現地報告)

赤色支那の再建

赤色支那の戦慄

赤色支那の全貌

蘇聯の社會相と支那赤化の可能性

治安維持會と星雲状態の北支政權運動

中華民國の國家承認を取消すべし

中國復興と冀東政府

中立化非武装化の政治的考察

東亞に於ける政治經濟體制の建設

徳王とその周圍

尾崎一秀二實 中央大公論 二月

藤枝丈夫 内外公論 二月臨時

吉植庄一郎 内外公論 二月

吉岡文六 財政公論 二月

白河風夫外二氏 改本精造 二月臨時

大塚山令三 内外公論 二月

山室三四郎 内外公論 二月

藤枝六丈三夫 財政經濟時報 二月

安進久 中央公論 二月臨時

田中香苗 文藝春秋 二月

古谷榮一 日本及日本人 二月

池宗墨 改會政論 二月臨時

川原史篤 外交時報 二月上旬

藤岡啓支 支那 二月

村田孜郎 中央公論 二月臨時

東亞の繁榮と支那民衆

南京政府の容共聯蘇

南京政府崩壊後に來るもの

南支抗日の中心地廣東

日支事變終局の目標

日支事變の將來

日支事變の進歩性

日支提携への道

日支問題論

日支兩民族の對峙

日蘇の危機再檢討

日本の衛るべき在支權益

北支をどうする

北支事變の意義及び發展性

北支の抗日運動は如何に行はれたか

井村薰雄 外交時報 二月上旬

青柳日篤恒 外交時報 二月

大西齊他三氏 世界知識 二月

横田實 科學知識 二月

林久治郎 外交時報 二月上旬

建部遜吾 外交時報 二月

門屋博 新評論 二月

風見章 中央公論 二月臨時

河合榮治郎 中央公論 二月

米内山庸夫 外交時報 二月上旬

茂森唯士他二氏 世界知識 二月

西尾禮 改本精造 二月

大藏公望外二氏 日本評論 二月

橋本増吉 外交時報 二月上旬

太田亮 中央公論 二月臨時

北支の政治的經濟的重要性	小島 精一	科學知識	二月
米國中立法の政治的考察	神川 彦松	外交時報	二月上旬
藍衣社の正體	梶原勝三郎	中央公論	二月臨時
藍衣社の潛勢力と其の抗日策	岩井 榮一	外交時報	二月上旬
隣邦支那の前途	猪俣津南雄	改造	二月臨時
列強の邊疆領土侵略	村田山政郎	外交時報	二月臨時
われ支那を愛す	宮崎龍介	中央公論	二月
我の對日希望	冀東政府王潤貞	中央公論	二月
英國はどこまで支那を援助するか	島田 晋作	經濟知識	三月
英國の極東政策を暴く	丸山 幹治	世界知識	二月
外蒙と新疆は何故日本に取つて重大か	等々力三平	新興經濟	二月
岐路に立つ外蒙古	後藤富男	文藝春秋	二月臨時
堯舜大帝國の建設案	黒田禮二	文藝春秋	二月
軍部と北支工作	和田日出吉	改造	二月
抗日全軍將兵に告ぐ	蔣介石	中央公論	二月

黃色人の聯邦組織	陳 是 晶	日本論叢	二月
察南自治政府と蒙古民族の動向	中野 史朗	東邦經濟	二月
支那事變の正しき認識	松室 孝良	外交時報	二月
支那事變と政治思想の統一	五來 欣造	帝國教育	二月
支那社會の特質と戦後工作	圓谷 弘	文藝春秋	二月
支那に於ける排日運動の全貌	本間山俊一	帝國教育	二月
支那はスペイン化されるか	淺川 謙次	文藝春秋	二月臨時
支那はまだどれだけ戦ひ得るか	村田 孜郎	文藝春秋	二月
支那民衆組織と國共對立	濱田峰太郎	中央公論	三月
十字路に立つ中國	宋 美 齡	文藝春秋	二月臨時
蔣介石獨裁の動搖	吉岡 文六	中央公論	三月
蔣政權の行途	村田 孜郎	中央公論	三月
新疆の危機	村田 孜郎	大亞細亞主義	二月
新疆の現狀について	村田 孜郎	大亞細亞主義	二月
新東洋の黎明來る	松岡 洋右	現 代	三月

新北支の建設

新蒙古建設の立役者

世界維新への進軍

ソ聯はどれだけ支那を援助したか

外蒙古はどう動く

大亞細亞主義の建設

大陸防共生命線

東亞安定の大方策

内蒙復興の炬火

南京政府の將來

南京の内部情勢はどうなつてゐるか

南京政府の二大煩悶

南支に於ける列強の勢力

日支關係の過去と將來

日支事變と北支建設の指針

中保與作時潮 二月

今井時郎 世界知識 三月

島山長三 外交時報 二月下旬

村田孜郎 中央公論 三月

杉森孝次郎 セルパン 三月

平竹傳三 文藝春秋 二月臨時

山田丑太郎 文藝春秋 二月

後藤富男 支那 二月

米内山庸夫 中央公論 三月

田中香苗 エコノミスト 二月(一)

中保與作 文藝春秋 二月臨時

信夫清三郎 東亞 二月

高樹三四郎外二氏 日本論叢 三月

高樹三四郎外二氏 日本論叢 二月

日支事變と善後策

日支事變の具體的な目的と北支及び支那の將來はどうなる

日支事變は如何にして終局を告ぐるのか

敗北支那の進路

北支建設の亞細亞的任務

北支建設の一考察

北支政權論

北支敗將の行衛

滿洲國と北支の關係

明日の北支

蒙古自治政府の創成

大西齊 外交時報 二月下旬

長谷川了 力之日本 三月

岡部三郎 外交時報 二月上旬

尾崎秀實 改造 二月臨時

藤澤親雄外二氏 いのち 三月

高木陸郎 大亞細亞主義 二月

末木儀太郎 日華 二月

中林貞男 改造 二月臨時

鈴木佐登志 〃 〃

大平昌一 東洋 二月

(卷頭言) 支那時報 〃

外交關係

書

名

著者

文者

文誌

著名

卷號月日

以夷制夷の双壁英、米

大熊三真

大亞細亞主義

八月

英國を恃む支那

田中香苗

いのち

九月

英支關係の檢討

アドヴァタイザ

セトル

八月

近代中國の全貌(外交)

長谷川了

自本の理由

八月

支那を中心とする列國の動き

井口貞夫

東洋

八月

支那を繞る日英の相剋とその動向

瀬戸茂平

商工之日本

七月

支那に於ける國際關係

田中直吉

日本評論

八月臨時

支那に躍る列國のスパイ

工藤克雄

文藝春秋

八月

支那に於ける日英協調の可能點

伊藤正徳

經濟知識

八月

支那の外交政策の重點

長岡克曉

外交時報

八月上旬

支那の國外宣傳

清澤忠洌

セマル

九月

支那の對外政策と列國の動向

植田信夫

解剖時代

八月

外交關係

四五

支那は事變を如何に宣傳したか	S. 田 V. C.	文藝春秋	八月臨時
事變真相と各國の動き	松本忠雄	ラヂオ講演講座	八月
事變と國際關係	田中九一	改造	九月土曜
事變と世界の輿論	長谷川五了	日本評論	八月
世界は事變をどう見たか	山崎進之助	文藝春秋	八月臨時
世界の殘肴「支那」	武藤貞一	雄辯	九月臨時
靜觀する理由(佛國)	町田梓樓	自工の自由	八月
切迫せる國際危機	白鳥敏夫	經濟マガジン	八月
ソ支關係概觀	長谷川了	日本評論	八月臨時
滿ソ國境紛争事件の其後と日支衝突の場合のソ聯の動向	馬場秀夫	財政經濟時報	八月
ソ聯の動向	茂森唯士	自由	九月
ソ聯は日支戦争を如何に煽動しつつあるか	久野真	經濟知主識	八月
蘇聯はどう動くか	藤枝丈夫	文藝春秋	八月臨時
想定し得る米國の態度	清澤洌	自由	九月
對支外交二十年とその破局	米田實	日本評論	八月臨時

對日外交の誤謬

次の大戦と米國の向背

獨乙の態度

日華外交六十年史

日支を繞ぐる列強の外交戦

日本の國際的地位

裸にされた帝國主義外交

米國は中立法を發動するか

北支のスパイ戦と列強の裏面活動

北支を繞る國際關係

北支を繞る日支國交關係を如何にすべきか

北支事件と英米の動向

北支事變と歐米の動態

北支事變と各國の動向

北支事變と九國條約

松本忠雄	文藝春秋	八月
高田市太郎	外交時報	八月上旬
野崎浩	自由	九月
信夫清三郎	アジヤ	八月
原勝	中央公論	八月
伊藤正徳	改造	九月
宮崎安夫	實業之世界	八月
アドヴァタイザア外二篇	セルパ	八月
井上謙吉	力之日本	八月
編輯部	東洋經濟新報	七月五
猪野毛利榮	實業之世界	八月
中村嘉壽	中央公論	九月
稻原勝治	中央公論	九月
武藤浩二	拓殖情報	八月
長谷川了	東大	九月
古城胤秀	文藝春秋	八月臨時

北支事變と國際條約	(編輯部)	文藝春秋	八月臨時
北支事變と列國の態度	鈴木東民	セルバパシ	九月
北支事變の國際的發展性	小室誠	大亞細亞主義	八月
亞細亞問題に對する外誌論評	(編輯部)	〃	九月
英國東方政策の一斷面	内藤智秀	外交時報	九月上旬
英國の對策と日支事變の前途	記	經濟情報	九月(二)
英大使の奇禍と國際法	田岡良一	外交時報	九月下旬
英國の動向と日、英、支の關係	鈴木東民	今日の問題	一〇月臨時
外國に於ける日本の不評判	(社説)	東洋經濟新報	九月(四)
各國の見た北支事變	記	經濟マガジン	九月
川越大使は何をしてゐるか	柳田光	政界往來	一〇月
川越大使は何をしてゐるか	花谷大	事業之日本	九月
國共合作と蘇支接近	嘉治隆一	改造	一〇月
支那事變とソ聯の動向	日森啓雄	〃	〃
支那事變と列國の動向	記	大阪經濟評論	九月

支那事變と戰時國際法	田岡良一	改造	一〇月
支那事變をめぐる日ソの鬭争	藤森唯七	今日の問題	一〇月臨時
支那事變を各國はどう觀てゐるか	二階堂明雄	辯論	一〇月
支那事變と世界の輿論	記	世界知識	〃
支那事變と英米の動向	伊藤正徳	文藝春秋	〃
支那のスペイン化	岡本正	經濟知識	〃
支那に於ける英國の勢力	尾崎秀實	中央公論	〃
支那に活躍する帝國主義諸國	大平進一	外交時報	九月上旬
支那事變と世界の輿論	K. L. M. N.	政界往來	一〇月
支那事變と列強	町田梓樓	世界知識	〃
支那事變と第三國	船田中	文藝春秋	九月臨時
支那事變をめぐる條約法規の展望	町田梓樓外二氏	グラフィック	九月下旬
支那事變と歐米諸國の動向	記	中外財界	九月
支那事變に對する英米の介入	岡田正治	日本經濟評論	九月上旬
支那利權を争ふ列強	大原監次	經濟マガジン	九月

支那に對する列強の經濟侵畧	記	加田哲二	日本經濟新報	九月上旬
事變を中心としたアメリカの印象	外務省情報部	官報	週報	九月(三)
事變をめぐる列國の動き	ハレット、アペント	セルパ	ン	一〇月(一)
事變と海外の反響	外二氏	セルパ	ン	一〇月(一)
事變は世界戦争にまで發展するか	伊藤正徳	文藝春秋		九月臨時
上海越界築路問題の本質	植田捷雄	外交時報		九月下旬
蔣介石失脚後の列強の動き	植原勝治	現報	代	一〇月
世界に於ける支那事變の反響	長谷川了	文藝春秋		九月臨時
中立法を適用すべし	ニユー、リパブリック社説	セルパ	ン	一〇月
中立法を適用するな	ネーシヨン社説	セルパ	ン	一〇月
ソ支關係の新段階	遠藤一郎	自由		〃
ソ支協定とその真相	馬場秀夫	力之日本		〃
ソ支合作と不可侵條約	記	月刊ロシヤ		〃
ソ支不可侵條約	芦田均	ラヂオ講話		九月(三)
ソ支不可侵條約を繞つて	益田秀彦	月刊ロシヤ		一〇月

ソ支不可侵條約と其の後に來るもの	嘉治隆一	週間朝日		九月(三)
ソ支不可侵條約と我が外交の立場	伊藤正徳	い	の	ち
ソ聯邦が參戦せば支那事變は如何なる?	堀場一雄	日本經濟評論		九月(一)
蘇支不可侵條約の成立と其の效果	記	國際經濟週報		九月(三)
蘇支密約の決定的意義	藤村丈夫	文藝春秋		九月臨時
大國としての英米蘇と日本及支那	田崎仁義	公民講座		九月
日華外交六十年	信夫清三郎	ア	中央	ア
日支關係の拋棄	尾崎敬義	東洋		〃
日支衝突をめぐる列國の動き	藤井晃	食糧日本		〃
日支衝突とソ聯の動向	岡崎秀作	經濟評論		〃
日支事變をめぐつて列國は果してどう出るか	稻原勝正治	實業の日本		九月下旬
日支事變と歐米列強の動向	細川嘉六	中央公論		一〇月
日支事變と國際正義	中野正剛	時潮		九月
日支事變とソ支不可侵條約	秋山憲夫	社會及國家		〃
日支事變と米國中立法	圓地與四松	外交大時報		九月下旬

日支事變と列國の趨勢	花田靖輝	東亞大陸	一〇月
日支事變と列國の動向	藤澤親雄	大亞細亞主義	九月
日支事變特に上海事變を繞る列國の動向	記者	東亞	〃
日支事變に對する外國新聞調	編輯部	大亞細亞主義	九月
日支戰爭から日ソ戰爭へ	小林知治外五氏	月刊ロシヤ	一〇月
日支蘇關係の切迫	平竹傳三	財政	九月
日支の危機を語る國際放送	フランク・ヘヂス	セルバン	一〇月
日支紛争とイギリスの覺悟	英國エコノミスト	東洋經濟新報	八月
平時封鎖の性質	信夫淳平	中央公論	一〇月
米國中立法(全文)	田中	セルバン	〃
米國中立法(全譯)	藤田	國際經濟週報	九月三
米國中立法に就て	大山卯次郎	ラヂオ講座	〃
北支事變と九國條約再檢討	古城胤秀	外交時報	九月上旬
北支事變と日蘇關係の動向	秋山憲夫	支那	九月
北支事變と日滿關係	滿鐵調査部	東京之商品	〃

北支事變の國際的斷面	小宮誠	支那	〃
北支には列國權益が錯綜してゐる	松本米太郎	朗業	一〇月
露支協定は何を意味するか	稻原勝治	ダイヤモンド	〃
英國外交の機密室	中村伸	中央公論	二月
英國外交の檢討	町田梓樓	外交時報	一〇月上旬
英國の外交と極東政策	伊藤正徳	ダイヤモンド	一〇月
外交政策の消極性	木元幹三	新業評論	〃
外交上の我が國民	田川大吉郎	經濟情報	二月三
外交に敗ける勿れ	後藤和夫	改交	二月
九ヶ國條約國會議の開催と列強	古城胤秀	東洋經濟新報	一〇月三
九國條約と列國の行動	土井章	日本經濟新報	一〇月
國際關係と現地調辨主義	松田道一	改交	二月
國際紛争と戰爭	松本堅太郎	外交時報	一〇月上旬
國際法を被つた英佛	松波仁一郎	文藝春秋	二月
支那沿岸の遮斷と第三國船		外交時報	一〇月上旬

支那事變を繞る歐洲列強	益田 豊彦	改造	造	一月臨時
支那事變を繞る各國の輿論	清水 大博	外交時報	報	一月下旬
支那事變を繞る日英ソ	(主) 田 重 張	エコノミスト	ト	一月(二)
支那事變と國際干涉	(時) 其 論	外交時報	報	一月下旬
支那事變とソ聯の動向	馬場秀夫外三氏	東本洋報	報	一月
支那事變とソ聯の關係	小 室 誠	月刊	報	二月
支那事變と日本の國際的地位	尾崎大秀實	外交時報	報	一月下旬
支那事變と列國	宮 田 光 雄	東本洋報	報	一月(三)
支那事變に對する英國の態度	大 熊 五 眞	實業之世界	界	二月
支那對外政策の史的考察	山 田 紫 水	大亞細亞主義	義	一月
支那の認識と列國の認識	石 川 通 治	實業展望	望	九月(上)
事變と海外宣傳	小 室 誠	邦人一	如	一月
焦慮の英國と退嬰の米國	增 田 義 一	文藝春秋	秋	一月臨時
宣傳の巧拙	世 良 浩	實業之日本	本	二月上旬
ソ支協定の示唆するところ		原理之日本	本	一月

ソ支不可侵條約と赤化支那	横 合 田 實	東洋	洋	二月
ソ支不可侵條約とソ聯の動向	芦 田 八 均	海之世界	界	二月
ソ支不可侵條約と南京政府	中 外 忠 登	眞理	理	一月
ソ支不可侵條約の意義	馬 場 秀 夫	外交時報	報	一月上旬
ソ支不可侵條約の裏をのぞく	村 田 致 郎	實業之日本	本	一月
ソ支不可侵條約の重大性	柏 木 二 郎	カレントヒストリ	リ	一月(四)
蘇支不可侵條約と支那の將來	高 木 富 五 郎	支那	那	一月
蘇支不可侵條約とその背後	島 村 辰 夫	大亞細亞主義	義	一月(上)
蘇支不可侵條約論	佐 藤 舜	國際知識及評論	論	一月(三)
大英帝國の崩壊過程と國際的戰國時代の到來	白 柳 秀 湖	東大日陸	陸	二月(上)
獨伊は何故日本に味方をするか	稻 原 勝 治	現代	代	一月(三)
日支問題を繞る外交戰の諸斷面	高田吾市外三氏	解剖時代	代	一月(上)
日獨防共協定再認識論	黒 田 禮 二	文藝春秋	秋	一月(二)
反日包圍陣形の再現	小 室 幸 誠	外交時報	報	一月(上)
米國中立法は日本に有利	園 地 與 四 松	東本洋報	報	一月

米國中立法發動の影響	岡田正治	日本經濟新報	二月
米國の新中立法を解剖して日支紛争との關係に及ぶ	田村幸策	外交時報	二月上旬
自らを縊る英國の對支政策	稻原勝治	エコノミスト	二月(二)
アメリカは何う動くか	岡田本鶴三松	外交時報	二月下旬
暗礁に乗上げた九國會議	工藤生	エコノミスト	二月(三)
イギリスの極東外交を暴く	小室誠	實業之日本	二月下旬
英國對歐政策の轉換と支那問題	田中直吉	經濟情報報	二月(三)
英國對支政策の本質	木迫善衆	グラフィック	二月上旬
英國は何故支那の味方をするか	西澤英一	話	三月
英米と九箇國條約會議	柏木二郎	外交時報	二月下旬
英米反日運動の誤謬	丸山幹治	カレントヒストリー	二月
華府會議から九國會議まで	松本忠雄	エコノミスト	二月(一)
華府會議以後の日支外交	有田八郎	文藝春秋	三月
外交雜感	河合榮治郎	中央公論	〃
外交の革新			〃

合縱連衡關係條約論(上)

九國會議經濟制裁	佐藤一舜	外交時報	二月下旬
九國會議と對日ボイコット	長谷川了	經濟情報報	二月(一)
九國會議と日本	(時 我 友 論)	文藝春秋	二月臨時
九ヶ國條約會議後の列強	米田實	外交時報	二月上旬
九國條約會議と支那	小澤木正元	世界知識	三月
九國條約會議と日本	横田喜三郎	改	二月臨時
九國條約會議に就て	林毅	外交時報	三月
九國條約効力の限界	清瀨一郎	外交時報	二月下旬
九國條約と英米の優越感	金生喜造	文藝春秋	二月臨時
國家ブロックの世界的對立	(主 張)	外交時報	二月上旬
最近國際政局に於ける米國の立場	市川泰次郎	エコノミスト	二月(三)
三國協定の意義とその世界的反響	河相達夫	國際知識及評論	三月
支那事變を中心とする世界識者の批判		ラヂオ講演講座	二月(三)
支那事變を繞る列國の動向		支那時報	二月
		東洋	〃

支那事變と英米露	米田實	支那	二月
支那事變と歐米の態度	船田中	創	二月
支那事變と其後の九國條約	古城胤秀	文藝春秋	二月臨時
支那事變と廣田外交	日笠芳太郎	大亞細亞主義	二月
支那事變と列國	林毅	文藝春秋	二月臨時
支那事變に對する外國新聞の論調	岸田英治	大亞細亞主義	二月
支那租界問題の基本的檢討	高梨菊二郎	外交時報	二月下旬
支那の聯ソ容共と英國の立場	鹿子木員信	日本評論	二月
支那の容共と英國の態度	平竹傳三	外交時報	二月
支那背後に於けるソ聯	直井武夫	文藝春秋	二月下旬
事變後ソ聯の對日動向	岡本永治	國體學雜誌	二月
事變の終局と英蘇の干涉	高木陸郎	中央公論	三月
上海中立案を繞りて	星島二郎	文藝春秋	二月臨時
宣傳の上手下手			

戰時體制下の宣傳	小田部謙一	日本論叢	二月
ソ聯の對支援助ぶり	馬場秀夫	エコノミスト	二月(三)
蘇聯邦の外交政策	石濱知行	蠶絲會報	二月
對外宣傳機關論	新居格	セルパン	二月(二)
對ソ體勢に於ける日獨の立場	本多熊太郎	實業之日本	二月下旬
提携親和の工夫	田川大吉郎	經濟情報	二月(二)
東亞ブロックの再編成問題	米田實外三氏	エコノミスト	二月(三)
日英關係の新展開	鹿島守之助	日本評論	三月
日獨伊防共協定の意義	平野等	中央公論	〃
日獨伊防共協定の成立	岡田宗司	世界知識	〃
日獨伊協定の波紋	(時論)	外交時報	二月下旬
日獨伊防共同盟、其他	高山春郎	外交時報	三月
日本は宣傳戰で何故負けるか	大山卯次郎	外交時報	二月下旬
不可解なる米國の態度	佐藤嘉作	外交時報	二月上旬
米國政府の九國條約及不戰條約に關する聲明を駁す			

墓穴を掘る支那の逆宣傳
露支同盟の推移

松本忠雄 日本及日本人 二月十日
秋山保一 外交時報 二月上旬

日本共産黨の成立

前山 外交時報 三月十日

日露戦争の歴史

前田 外交時報 三月十日

日露戦争の歴史

平 外交時報 三月十日

日露戦争の歴史

前田 外交時報 三月十日

日露戦争の歴史

前田 外交時報 三月十日

日露戦争の歴史

前田 外交時報 三月十日

日露戦争の歴史

前田 外交時報 三月十日

日露戦争の歴史

前田 外交時報 三月十日

日露戦争の歴史

前田 外交時報 三月十日

日露戦争の歴史

前田 外交時報 三月十日

日露戦争の歴史

前田 外交時報 三月十日

日露戦争の歴史

前田 外交時報 三月十日

日露戦争の歴史

前田 外交時報 三月十日

軍事、國防關係

近代化の支那軍備

美矢田好朗 カレント、ヒストリー 九月

ギリラ戦術物語

佐渡愛三 中央公論 九月

黄河以北

武藤貞一 文藝春秋 九月

抗日支那の軍備

甲野志恰 吉東 陸 七月

最近に於ける第二十九軍の不法事件

外務省情報部 官報週報 七月

支那海軍は如何してゐるか

杉坂悌二郎 グラフイック 八月下旬

支那共産軍を語る

外務省情報部 官報週報 八月

支那空軍怖るるに足らず

社説 航空時代 八月

支那空軍を語る

渡邊一英 政界往來 九月

支那空軍の今昔

川島陸郎 航空時代 八月

支那空軍の擴張、正體

編輯部 航空の日本 八月

支那空軍の實力

前原久 世界知識 九月

支那空軍の特質	雨宮 巽	文藝春秋	八月臨時
支那軍の戦闘力はどれ位か	三島 康夫	今日の問題	九月臨時
支那國防力の解剖	宇治田 直義	日本評論	八月臨時
支那總動員計畫の全貌	工藤 貞雄	世界知識	八月
支那地方軍閥と蒋介石	田中 香苗	實業之日本	九月上旬
支那の軍隊と各國の武器賣込戰	高木 富五郎	話	九月
支那の軍事機構と軍首腦部	編輯 二部	國際經濟週報	八月(三)
支那の戰爭秘話	中野 江漢	改造	九月(三)
支那の日本要撃作戰	劉 志堅	世界大知識	〃
支那は果して戦へるか	野田 貞豊	軍部と財界	八月(二)
支那民間航空輸送事情	木田 徹	空軍	八月
支那陸海軍の戦闘力	河村 基美	政界往來	九月
支那陸軍の全貌	名著越 敏	事業之日本	八月臨時
支那陸軍の戦闘力	井上 謙吉	グラフィック	八月下旬
支那陸軍兵力の現状	陸軍省新聞班	朗	九月

蒋介石は戦へるか

吉岡 文吉 中央公論 九月

其の後の北支戦線

陸軍省新聞班 官報週報 八月(四)

大陸戰略論

武藤 貞一 改造 九月臨時

對日作戰計畫の實相

井上 謙吉 日本評論 八月臨時

對日即時開戰論

孟 長 隊 世界知識 九月

中央軍・雜軍・共產軍

藤村 丈夫 月刊ロシヤ 八月

中央軍の戦闘力

三島 康夫 文藝春秋 八月臨時

廿九軍と中央軍

新田 見浩 日本評論 八月

日支事變と支那の共產軍

神田 正雄 實業之日本 八月上旬

日支戰爭の次に來るもの

武藤 貞一 世界知識 九月

日支大戰となるか?

吉植 庄一郎 内外公論 九月上旬

日支戦はば

三島 康夫 日本評論 八月臨時

日本の廢藩と支那の整軍

何軍 應欽 中央公論 九月

北支事變と廿九軍並びに支那軍隊

田中 香苗 〃 〃 八月

北支に躍る軍閥

編輯部 世界と我等 〃 〃

北支事變と帝國海軍	保科善四郎	ラヂオ講座	八月三
平津地方の掃蕩	陸軍省新聞班	官報の週報	八月四
爆音南京に轟く	海軍軍事普及部	中央公論	八月四
支那軍隊と兵器	井原義人	子供の科學	一〇月
支那軍隊の實力	須藤隆助	講演之友	八月下旬
支那中央軍はどこまで戦へるか	柏木三郎	經濟マガジン	九月
支那に果して勝算ありや	石丸藤太	海軍グラフィック	一〇月
支那の國防	高田豊樹	ラヂオ講演講座	九月三
支那の對日長期抗戦は可能か	及川六三四	中央公論	一〇月
上海の支那兵と支那軍	白須賀六郎	實業之日本	九月下旬
スターリンと赤軍	三島康夫	新青年	一〇月
世界大戰に於ける英國の食糧管制の狀況	青木貞雄	榮養の日本	九月
赤軍對日戰術の一考察	三島康夫	文藝之春秋	一〇月
ソ聯の軍備擴張と經濟的基礎	堀江邑一	自由通商	九月
ソ聯は戦ふか	植田信夫	解剖時代	一〇月

太平洋を睥睨する米海軍	伊東安五郎	新青年	九月
「打倒日本」作戦を探る	原圭三	自由通商	九月
ドイツに於ける軍備擴張とその結果	美濃部亮吉	自由通商	九月
嗤ふべき長期抗日作戦	池崎忠孝	現代理	一〇月
生き延びる支那の空軍	三島康夫	實業之日本	九月下旬
海軍全支沿岸を制壓	海軍省軍事普及部	週報	九月三
近代戰爭論	吉祥寺一郎	東大陸	一〇月
近代戰の實相	ゾルシエ氏外四氏	世界知識	九月
これが支那兵だ	村田孜郎	外交時報	九月下旬
抗日支那軍の戰略戰術	後藤富男	外交時報	九月下旬
抗日支那軍の戰鬥力と戰略	佐野袈裟美	自由通商	九月
國際政局と英國の軍擴及影響	平尾弥五郎	自由通商	九月
支那海軍概観	大亞細亞協會調査部	大亞細亞主義	九月
支那共產軍の抗日作戦	藤枝丈夫	週間朝日	九月四
支那空軍の全貌	稻野西太郎	科學畫報	一〇月

支那空軍の實力

支那空軍の飛行機と其性能

支那空軍はどこまで戦へるか

東西戦争理論の再吟味

南支の軍事根據地海南島を衝く

フランスの軍擴と財政

米國の軍備擴張とその影響

列強空軍の現勢と我等

列強戦艦の趨勢

我が海軍ニ依ッテ擊墜サレタ支那ノ

戦闘爆撃機ノ實相

我海軍の威力と列強海軍

天晴れなりし支那軍用機

海と遮斷後の支那の武器輸入

海と遮斷と渡洋爆撃法

外人の見た日本軍と支那事變

記 西太者 國際經濟週報 九月(四)

依田昌二 文藝春秋 九月臨時

大場彌平 グラフイック 九月上旬

神田孝一 外交時報 //

和田三郎 事業之日本 九月

島崎憲二 自由通商 //

木村聯太郎 //

大場彌平 新界青年 二月

廣瀬彦太 海の大世界 九月

山本正次 スピード 二月(三)

南暉吉 經濟マガジン 九月(四)

大場彌平 海と空 二月

山内晴聽吉 話山脈 //

松之堅太郎 //

テトラ他二氏 //

近代戦争の特質と支那事變

空中戦史より見たる南京空爆

軍略上から見た支那の作戦を暴く

現代支那の戦術家を語る

皇威山西山東に振ふ

支那沿岸封鎖並に民國の海空軍

支那海軍を撃破す

支那海軍艦船の現状

支那空軍損害についての虚報

支那空軍はどんな飛行機をもつてゐるか

支那空軍飛行機の性能

支那事變を契機として斯の如き自動車國策を要望す

支那事變と戦争法規

支那事變と帝國海軍

支那事變に於ける我が海軍航空隊の活動に就て

村中俊造 拓殖情報 二月(三)

大場彌平 文藝春秋 二月臨時

井上謙吉 話 //

雨宮 異 //

陸軍省新聞班 官報週報 二月(三)

廣瀬彦吉 海之世界 二月(三)

海軍軍事普及部 官報週報 二月(三)

大町東洋 海と空 二月(三)

X. Y. Z. 日本評論 二月(三)

記 者 航空日本 二月(三)

堀内信水外七氏 スピード 二月

神谷龍男 支那 二月(三)

森田徳治 日本及日本人 //

海之世界 二月

支那事變兩軍の配備	(獨)	文)	獨	文	評論	二月
支那將校の手記	神	田	孝	一	日本及日本人	〃
支那に於ける海軍の戦果と犠牲	海	軍	省	發	表	二月(三)
支那の海軍水兵生活	由	内	良	水	駿	三
支那の空軍と其の飛行機	郡	田	龍	彦	改	造
支那の軍備とその目標	土	屋	駿	一	新	年
支那の城壁	香	取	桂	一	子	供
支那の武器はどうしてゐるか	記	東	者	者	子	供
支那兵行狀記	中	軍	村	善	又	孝
支那兵の生活を裏から見る	木	道	善	象	話	世
支那事變の我が海軍航空隊の活動狀況	森	軍	省	德	治	空
支那陸軍の概要	陸	軍	省	新	聞	班
死戦に躍る支那のスパイ	久	野	豊	彦	現	代
淞滬沿線に進出	海	軍	省	軍	事	普
制空權我に歸す	〃	中	〃	〃	〃	〃

石家莊・綏遠城の攻畧	陸	軍	省	新	聞	班	官	報	之	週	報	二月(三)
赤軍に戦ふ餘裕ありや	記	事	省	新	聞	者	商	工	之	日	本	二月(三)
戦機黄河に動く	陸	軍	省	新	聞	班	官	報	週	報	二月(四)	
戦局は何處まで進展したか	松	本	本	館	又	夫	サ	ン	デ	ー	毎	日
掃蕩す!! 羅店鎮戦線に於て	和	知	部	隊	長	話	〃	〃	〃	〃	〃	〃
中華都市防空の研究に就て(二)	熊	軍	井	安	義	建	築	世	界	〃	〃	〃
中國少年の漢奸物語	支	那	立	報	誌	世	界	〃	〃	〃	〃	〃
長期抗戦とは何か	支	那	中	山	日	報	誌	〃	〃	〃	〃	〃
長期抗日戦は可能か	林	西	和	之	助	公	民	〃	〃	〃	〃	〃
帝國海軍の支那船舶沿岸航行遮断	記	事	省	海	軍	者	支	那	時	報	〃	〃
南京軍官學校の正體	木	迫	登	善	象	話	〃	〃	〃	〃	〃	〃
日支空軍主力の動向	野	口	文	昂	日	本	評	論	〃	〃	〃	〃
日支事變に於ける制空殊勲者列傳	中	野	通	吾	航	空	時	代	〃	〃	〃	〃
(海軍の卷)	記	事	省	海	軍	者	犬	の	研	究	〃	〃
日支戦線ニユースに躍る軍犬	大	江	專	又	一	現	〃	〃	〃	〃	〃	〃
白日下に洒された南京の機密室	〃	〃	〃	〃	〃	〃	〃	〃	〃	〃	〃	〃

歩一步壓迫す	海軍省軍事普及部	官報週報	二月(二)
保定滄州の陥落と上海戦線の力攻	陸軍省新聞班	外交時報	二月(四)
北支事變と陸戦法規	篠田治策	月刊滿洲	二月上旬
北支に於ける皇軍の活躍	柳田友郷	週刊朝日	二月(三)
北支に於ける皇軍の行動について	野村登龜江	官報週報	九月(五)
北支平野の殲滅戰	陸軍省新聞班	事業之日本	二月
問題の蒋介石直系軍	坂西利八郎	内燃機關	二月
我が荒鷲に蹂躪無殘の支那機	(圖中山日解)	海軍グラフィック	二月
我が海軍航空隊の活動	森徳治	官報週報	二月(三)
喊聲江南の天地を震撼す	陸軍省新聞班	官報週報	二月(三)
金づくの戰爭(支那兵行狀記)	中村孝	カレントヒストリー	二月(三)
軍艦旗開北に輝く	海軍省軍事普及部	官報週報	二月(三)
江南の大追撃戰	小坂英一	文藝春秋	二月(三)
杭州灣奇襲作戰に成功す	陸軍省新聞班	官報週報	二月(三)
開北の堅陣を抜く	海軍々事普及部	官報週報	二月(三)

山岳戰物語

山西の大勢決す

支那沿岸航行遮斷

支那側從軍日記

支那空軍の飛行機

支那空軍使用機列傳

支那軍使用の新兵器

支那紙を通じて見た「對日戰術」

支那事變と軍用犬

支那事變と帝國海軍

支那事變に於ける我が海軍航空隊の活動について

支那人と戰爭

支那少壯軍部論

支那戰費支出能力と長期抗日戰の壽命

支那の海軍と空軍

軍事、國防關係

大場彌平	實業之日本	二月下旬
陸軍省新聞班	官報週報	二月(三)
吉見勇助	海と空	二月
陣萬里	改造	二月臨時
編輯部	工業雜誌	二月
近藤勉	海軍グラフィック	三月
井上謙吉	發明	二月
記者	時局情報	三月
中村勝一	グラフィック	二月上旬
寺垣敬三	公民講座	二月
森徳治	航空日本	二月
パール、バック	中央公論	三月
田中秀苗	改造	二月臨時
齋藤直幹	海軍グラフィック	三月
吉見勇助	海と空	二月

上海戦線の進展に就て
 上海の死命を制す
 察哈爾は斯くて陥落せり
 トーチカに就て
 米人の見た日本と支那の軍事航空

大久保弘一文藝春秋 二月臨時
 海軍々事普及部官報週報 二月(三)
 (長江) 改造 二月臨時
 中澤政治土木ユキウス 二月
 阪村東太郎航空時代 七月(三)

財政、經濟關係

インフレーションと公債消化との關係
 海運賃昂騰の物價への影響
 各事業會社の戰時轉換増資拂込徴收
 續出の傾向
 危機に立つ日支貿易

友岡久彦雄 金融三層 八月
 (編輯部) 東洋經濟新報 七月(三)
 野田豊 軍部と財政 八月(三)
 木村増太郎 文藝春秋 八月臨時
 岡崎三郎 自由 九月
 長野朗 経済新報 七月(三)
 (編輯部) エコノミスト 八月(三)

近代中國の全貌(經濟1)
 近代中國の全貌(經濟2)
 金融機關の動員と幣制改革
 軍事費の民間放出再檢討
 軍事財政への新檢討
 經濟建設と五ヶ年計畫
 現内閣の財政經濟三原則
 公債は果して消化されるか

色川俊次郎 經濟市場 八月
 小島精一 日本評論 八月臨時
 賀屋興宣 財政 八月
 野田豊 軍部と財政 八月(三)

孔財政部長の外債政策に就て	(編輯部)	支那時報	八月
抗日支那の經濟力	岡崎三郎	改造	九月
抗日支那の國防經濟	牧内正男	日本評論	八月臨時
刻下國際收支改善問題	松山茂二郎	エコノミスト	八月(三)
國防獻金の合理化	林要	文藝春秋	九月(一)
國民政府の資金網	梶原勝三郎	東洋經濟新報	八月臨時
今後の財政膨脹は悉く増税に依つて 賄ふ外無し	(社説)	東洋經濟新報	八月(三)
今明年に恐慌來るか	猪俣津南雄	日本評論	九月
在支紡はどうなるか	(編輯部)	東洋經濟新報	七月(四)
財政上から見た支那の實力	太田宇之助	實業之日本	九月月上旬
産業動員と今後の經濟界	熊田克郎	經濟情報	八月(三)
支那國民經濟運動に現はれたる様相	東亞經濟調查局	東亞	八月
支那財政に於ける對戰資力檢討	(編輯部)	經濟情報	八月(三)
支那重要工業の概觀(上)	東亞經濟調查局	東亞	八月
支那と列國經濟關係	神田正雄	ラヂオ講演講座	八月(四)

支那に於ける各國の權益	岡崎三郎	實業之日本	八月下旬
支那の金融市場に於ける政府系諸銀行	東亞經濟調查局	東亞	八月
支那の經濟力は何處まで戰爭に堪え 得るか	小瀬信春	經濟知識	八月(三)
事變擴大と東洋紡績	(編輯部)	經濟情報	八月(三)
事變とわが財界	伊藤好道	セルパン	九月
事變と支那關係會社研究	(編輯部)	經濟知識	八月
事變動員株は有望なり	野崎竜七	文藝春秋	九月
事變特別稅批判	阿部勇	日本評論	八月(三)
事變の影響と豫算消化策	(社説)	投資經濟	八月(三)
事變は財政機構の改革を促進	筑後三郎	解剖時代	九月
事變發展と統制強化の新段階	(編輯部)	經濟情報	八月(二)
時局と富籤是非	下村海南	中央公論	九月
時局と日支貿易	(編輯部)	内外商工時報	八月
重壓をうけた財政、經濟の動向	鈴木茂三郎	改造	九月

重工業景氣論	勝田貞次	科學主義工業	九月
重大時局と我經濟界の動向	(編輯部)	東洋經濟新報	〃
將來戰の軍費調達問題	〃	内外公論	九月上旬
準戰景氣の銀行業務への反映	編輯部	エコノミスト	八月(三)
準戰時經濟問答	津村秀松	實業之日本	九月上旬
準戰時經濟より戰時經濟へ	猪俣津南雄	改造	九月
準戰時財政と國民生活	阿部勇	〃	八月
準戰時體制から戰時體制へ	島田晋作	經濟知識	九月
準戰時體制下の日本經濟	塚田万平、宇津木力	新興經濟	八月
準戰時統制の強化と物價及産業の見透し	編輯部	經濟情報	八月(三)
準戰時體制の現段階と國民生活	岩井良太郎	東大陸	九月
準戰時體制より戰時體制へ	並木哨兵	カレントヒストリー	〃(三)
〃	(主 張)	エコノミスト	七月(三)
生産力擴充下の産業界の動向	編輯部	經濟時代	八月
生産力擴大運動の昂進	〃	經濟之日本	〃

制裁發動と日本の資源	ハインゲン	解剖時代	九月
戰時景氣に乗る新金儲け法	玉塚締伍外六氏	力之日本	〃
戰時經濟を迎ふるの覺悟	(社説)	中外財界	八月
戰時體制下の財政	林要	中央公論	九月
戰時財政と國民經濟生活	高木壽一	實業之日本	九月上旬
戰時準戰時經濟と次の景氣を語る座談會	小汀利得外二氏	力之日本	九月
戰時増稅案の全貌と財界への影響	前田梅松	實業之日本	八月下旬
戰時體制への移行と財界	編輯部	中外財界	八月
戰時體制の動向(財界時評)	P. C. L.	日本評論	九月
戰時統制の方向と景氣	(社説)	投資經濟	八月(三)
戰時の爲替問題及び爲替政策	金原賢之助	財政經濟時報	八月
戰爭で會社の配當は制限されるか	小島精一	實業之日本	九月上旬
戰爭と化學工業	編輯部	經濟研究	八月
戰爭と經濟を語る座談會	高木陸郎外七氏	經濟情報	八月(三)
戰爭と經濟	調田查部	新興經濟	七月

戰爭と經濟的統制	石田登榮雄	カレントヒストリー	九月
戰爭と財界	小木汀利得	實業之日本	九月上旬
戰爭と財産	野田豊外三氏	實業之世界	七月
戰爭と日本産業界(1)	編輯部	實業之世界	七月
戰爭と日本産業界(2)	編輯部	實業之世界	八月
戰爭と日本産業界(3)	編輯部	實業之世界	九月
戰爭と物質動員	木村禧八郎	改本	九月
戰爭になれば株式界はどうなるか	栗林正修	經濟知識	八月
戰爭は悪性インフレを呼ぶか	石橋湛山	中央公論	七月(五)
増税必至の財政	編輯部	東洋經濟新報	七月(五)
對支貿易と在支邦人の企業	大森次郎	カレントヒストリー	九月
對支貿易の消長とその特殊性	伏見義夫	地理教育	八月
對支貿易はどうなる	六郷寛	水産公論	八月
中國財政の解剖	樋口六弘	日本評論	八月臨時
長期抗日の財政的ナンセンス性	早坂二郎	社會往來	九月

長期戦下の消費統制	伊藤好道	中央公論	七月
天津に於ける日本商品の現状	小倉章弘	アジア	七月
天津に流通する小切手の話	編輯部	金融知識	八月(一)
日支衝突と國際經濟戰	藤岡啓	財政經濟時報	八月
日支衝突の經濟的基調	藤枝丈夫	東洋大日陸	九月
日本の北支事變費	社説	英文東洋經濟	八月
北支を中心の支那炭業の現状	平野好正	東邦經濟	八月
北支五省の富源とわが投資事業	中邑琢二	昭和之實業	八月
北支資源と我權益	高木陸郎	日本評論	八月臨時
北支事變と圓爲替問題	山瀬達	解剖時代	九月(一)
北支事變と經濟界	金原賢之助	經濟情報	七月(三)
北支事變と今後の投資方針	塩川崎大生	經濟時代	八月
北支事變と山東鑛業	編輯部	東洋經濟新報	八月(三)
北支事變と在支企業	編輯部	東洋經濟新報	八月(二)
北支事變と支那貿易の影響	編輯部	經濟公報	八月(一)

北支事變と支那財界の展望	木村増太郎	エコノミスト	八月(二)
北支事變と統制經濟の進展	伊藤好道	財政經濟時報	八月(二)
北支事變と日支貿易	吉田輝虎	外交時報	八月下旬
北支事變と我金融對策	色川俊次郎	事業之日本	八月
北支事變の經濟的背景	堀江賢一	中央公論	九月(三)
北支事變の經濟的考察	編 輯 部	エコノミスト	八月(二)
北支事變の發展と財政經濟	金原賢之助	經濟情報	八月(三)
北支と外國貿易	野崎龍七	日本之評論	九月
北支獨立と飛躍的經濟戰時體制	橋本欣五郎	社會往來	〃
北支に於ける我が經濟權益	編 輯 部	農業と經濟	八月
北支にはどれだけの資源があるか	小林幾治郎	實業之日本	八月下旬
北支の經濟的地位	大上末廣	改造經濟叢書	九月
北支の經濟價值を検討する	編 輯 部	日本經濟新報	八月上旬
北支の現状と日支經濟提携	野崎龍七	東洋	八月
北支の資源と列國の權益	編 輯 部	内外公論	九月上旬

北支の資源と我特殊權益	高木陸郎	時評主潮	八月
民國二十六年國家豫算の檢討	編 輯 部	支那時報	〃
列國の對支貿易活動	東亞經濟調查局	東トヤセン	〃(二)
北支の經濟地理	松田直人	週交朝日	八月(三)
伊エ戰爭後の伊太利經濟	記 者	東洋の經濟	九月(三)
沿海航行遮斷の經濟的影響	岡崎三郎	改造經濟叢書	一〇月
歐洲大戰の列國の年費	齊藤直幹	ダイヤモンドウイ クリ	九月(四)
應召と銃後の經營	記 者	新大經濟營	九月
海運の戰時體制と船舶管理問題	〃	エコノミスト	〃
危機に直面した支那の財政	〃	ダイヤモンドウイ クリ	九月(四)
岐路に立つ在支紡	〃	紡績之經濟	八月
北支那の範圍と其の資源	神田正雄	農業と經濟	九月
小林一三の「北支事變天佑」論	(社説)	東洋經濟	八月(四)
抗戰下の支那財政	高橋良三	外交時報	九月上旬
國民政府は戰爭を賄ひ得るか	小島精一	文藝の春秋	九月臨時

在華日本紡績の被害はイクラカ	野口綱男	實業の世界	二月
北支紡績業の今後	記	經濟時代	九月
支那を操る歐米軍需工業者の魔手	小野七郎	雄辯	二月
支那を喰ふ歐米軍需會社	久野豊彦	中央公論	〃
支那側の戰時金融を窺ふ	記	東洋經濟	九月三
支那經濟建設と猶太人の活動	赤池濃	東洋	九月
支那經濟力は戰爭に堪へ得るか	木村増太郎	ダイヤモンドクワイ	〃
支那國防經濟論	堀江邑一	中央公論	二月
支那財界の實力と長期抵抗の可能性	記	大阪經濟評論	九月
支那財政の耐久力検討	長野三朗	世界知識	二月
支那事變と日支の經濟、財政	木村増太郎	今日の問題	二月臨時
支那鐵道を中心として	上村茂夫	汎交通	二月
支那に於ける日本の紡績	阿部調査生	ダイヤモンド	九月二
支那の經濟的侮日思想	(主 張)	エコノミスト	〃
支那の戰時經濟對策を觀る	協會調査部	大亞細亞主義	九月

支那は如何にして財費を作るか	侯樹形	世界知識	二月
支那幣政はどうなるか	土屋計左右	ダイヤモンド	九月三
支那幣政は崩壊せんとなす	記	〃	〃
支那問題の貿易への影響打診	西田博太郎	化學工業	九月
事變後の北支經濟事情	天津都築史郎	實業之世界	二月
事變と支那經濟の前途	記	國際經濟週報	九月二
事變と支那の經濟力	岩井光次郎	改造	二月
事變と支那財政	木村増太郎	ラヂオ講演講座	九月三
死物狂ひの支那戰時經濟	記	新興經濟	九月
準戰時體制下の支那財政	廣瀬主宏	東洋	〃
蔣介石はどこまで戰費が續くか	小林幾次郎	實業之日本	九月下旬
眞の日支經濟提携	高木陸郎	現代	二月
世界大戰に於ける獨逸の戰時經濟	有澤廣巳	文藝春秋	九月臨時
第二次世界大戰と列強の資源	小島精一	いのち	二月
日支事變と支那經濟	記	銀行總典	九月

日支事變と支那の脆弱性	小林 幾次郎	外交の時報	九月下旬
日支事變と支那の財政金融狀態	由比 又男	改造	一月
破境に瀕せる支那財政、斷末魔の國民政府	記 者	日本經濟新報	九月上旬
北支開發のプラン	岡 山 尙平	解剖時代	一月
北支經濟事情を語る	野 崎 龍 七	經濟マガジン	九月
北支經濟對策大綱	北 條 秀 一	改造	一月
北支權益の全貌	水 木 京 平	文藝	九月
北支五省の交通及通信	記 者	東洋新報	九月
北支資源と列國の權益	神 田 正 雄	雄辯	一月
北支資源の展望	内 村 生	經濟市場	九月
北支に於ける英國の權益	工 藤 貞 雄	支那	九月
北支に於ける日本の地位と權益	X. 田 正 雄	蠶絲時報	九月
北支に於ける列國の權益	記 者	經濟時代	九月
北支に於ける列強の權益	記 者	東洋新報	九月
北支に對する列國の投資と産業開發の諸條件	記 者	工業日本	九月

北支にどの位の資源があるか	海 保 龍 三	話	一月
北支棉の輸入促進を圖れ	記 者	ダイヤモンド	九月(三)
列國の支那相手の武器商賣	記 者	國際經濟週報	九月
我國及歐米諸國の戰費及軍事費調査	記 者	國際經濟週報	九月
廣東全省交通の調査	記 者	東洋新報	一月
廣東、福建兩省の交通及通信施設	記 者	東洋新報	一月
察哈爾省の産業と資源	記 者	拓殖殖民事務報	一月
極東の石油資源問題	佐 藤 健 三	新興經濟	一月(三)
苦悶！上海財界の現状	奧 村 喜 和 男	ダイヤモンド	二月上旬
抗日支那と歐米軍需會社	廣 瀨 將	實業之日本	二月上旬
國威宣揚、日支經濟提携近し	田 村 喜 代 太	日本經濟新報	一月
國民政府の外債に關する調査資料	記 者	東洋新報	一月
今次事變從軍將兵の租稅減免	中 村 繼 男	ラヂオ講演講座	一月(二)
最近支那國勢要覽	記 者	ダイヤモンド	二月
最近對支貿易の概況	秋 元 順 朝	財政	一月

最近の厦門を語る	臺灣支社	新興經濟	二月
在支居留民の財産はどうなる	記者	事業之日本	〃
支那沿岸航行遮斷の經濟的影響	〃	東亞細亞	〃
支那を繞る列國の經濟戰	根津知好	帝國教育	〃
支那金融對策と涯劃	記者	日本經濟新報	〃
支那財政の機構と脆弱性	高梨信藏	カレントヒストリー	〃
支那事變を契機として我國經濟機構の轉換	澤井健	實業展望	〃
支那事變と關係會社	記者	エコノミスト	二月(二)
支那事變と産業組合の活動	〃	産業組合時報	二月
支那事變と財界の前途	村地久治郎	實業之日本	二月上旬
支那事變と資金調整	藤井郷川	保險銀行信託時報	二月
支那事變と上海生絲の輸出杜絶	西村五郎	蠶絲界報	〃
支那事變と紡績會社	記者	財界新報	〃
支那事變と我國産業	平尾卯二郎	産業と教育	二月(一)
支那事變と我經濟界の動向	渡邊省二	東邦經濟	二月

支那事變の推移と株式界の前途	塩崎太生	經濟時代	〃
支那事變の農村に對する影響	稻村順己	帝國農會報	〃
支那事變の見透しと相場	記者	株式之研究	二月(三)
支那主要鐵道の解説	〃	實業之日本	二月下旬
支那船舶の通航遮斷に就て	大石堅志郎	ラヂオ講演講話	二月(三)
支那鐵道を中心として(二)	上村茂夫	汎本交通	二月(一)
支那鐵道を繞る國際資本戰	記者	世界と我等	〃
支那特に北支の鑛物資源	木下亀城	デトール	〃
支那に於ける英米の經濟的利害	ヴァアルガ	セルパン	〃
支那に於ける工業化の問題と外國資本	黒田俊夫	商工經濟	二月(三)
支那に於ける國際猶太財閥の活躍	宇都宮希洋	大亞細亞主義	〃
支那に於ける列國の經濟關係	神田正雄	支那	〃
支那の産業發達狀況竝に事變の影響	高木實陸郎	〃	〃
支那の資源調査	記者	財政經濟時報	〃
支那の將來をどうするか	アドヴァタイザー	セルパン	二月

支那貿易の國際的意義	柏木憲治	法と經濟	二月
支那貿易の窒息	在上海某輸出業者	ダイヤモンド	二月(三)
支那幣制の崩壊	高垣寅次郎	中央公論	二月
在支日本人紡績業の現状	記田五者	實業展望	二月
事變と支那の財政經濟	〃 藤宮希典	世界と我等	二月
事變に反映せる支那の經濟生活	後藤朝太郎	經濟情報	二月(三)
事變による日支貿易の停止と海外新市場開拓問題	藻刈一鳳	實業展望	二月
上海現地經濟調査	川島篤	ダイヤモンド	二月(三)
上海戰爭の經濟的打撃	記	東洋經濟新報	二月(三)
石炭飢饉とその対策	〃	日本經濟新報	二月下旬
戰火の中心地上海に於ける邦人の諸事業	〃	工業新日本	二月(三)
戰火に見舞はれた五大紡績會社の檢討	〃	東邦經濟	二月(三)
戰爭時の支那財界	吉田政治	ダイヤモンド	二月(三)
戰爭は如何に支那の幣制を破壊しつつあるか	記	東洋經濟新報	二月(三)
斷末魔に喘ぐ支那財政の檢討	木村増太郎	東洋經濟	二月

長期戦と支那經濟の將來	山崎靖純	ダイヤモンド	二月(二)
東洋の寶庫北支に於ける天然資源に就て	記	工業新日本	二月
東亞新經濟ブロックへの道	三宅晴輝	中央公論	二月
日支合併企業に關する若干の檢討	岸田革治	支那	二月(二)
日支事變と經濟問題	記	銀行論叢	二月下旬
日支事變と支那生絲の前途	〃	生絲の我國	二月下旬
日支事變と農業	安藤廣太郎	實益農業	二月(三)
日支事變と物價對策	色川俊太郎	經濟市場	二月(三)
日支事變に因る貿易の變化と今後の豫想	記	東洋經濟新報	二月(三)
日支事變の擴大と臨時特別稅	〃	實業展望	九月(三)
日支事變は何時終熄するか	〃	投資經濟	二月(二)
日支事變費の膨張と公債消化問題に就て	島津春秋	實業展望	九月
日支貿易の將來	野崎龍七	雄辯	二月
日滿支三國經濟ブロックと統制經濟の眞行草の三體	栗本勇三郎	財政	二月(三)
フランスの對支クレジット	W・グロットコップ	セルパン	二月

砲煙彈雨下の國民政府の財政と金融	井村 薰雄	支那	二月
崩壊に瀕する支那の財界	川島 篤	ダイヤモンドウイークリー	二月(三)
崩壊迫る國民政府財政の内幕	平野 好平	東邦經濟	二月
紡績資本北支進出の見透し	記 者	紡績經濟	〃
北支開發の經濟政策	〃	日本經濟	〃
北支經營の基調	關山茂太郎	文藝春秋	二月臨時
北支經濟開發策研究	十河信二他十一氏	經濟智識	二月
北支經濟建設と資源開發	記 者	エコノミスト	二月(三)
北支經濟建設の理想案	小林 一三	中央公論	二月臨時
北支五省の經濟概観	記 者	日本經濟新報	二月下旬
北支五省の經濟的分析	美矢田好郎	カレントヒストリー	二月
北支工業立地論	記 者	エコノミスト	二月(二)
北支攻略の成功と我が經濟	財界概観	東洋經濟新報	〃
北支興業組合の提唱	小林 一三	實業之世界	二月
北支港灣の概況	記 者	東洋經濟新報	二月(三)

北支資源論	木村増太郎	文藝春秋	二月(二)
北支事件特別稅解説	片岡政一	實務研究	二月
北支に於ける棉花と在支紡績業の將來	記 者	工業日本	二月(三)
北支に於ける列強の權益	久野 五郎	財政經濟時報	二月(三)
北支に拓けた就職戰線	A. M. J.	實業之日本	二月下旬
北支の基本的開發計畫案	社 説	會社評論	二月(二)
北支の産業と資源	井上謙吉	經濟マガジン	〃
北支の資源と帝國の權益	國松久彌	デタルタ	二月(三)
北支の農業を語る座談會	大上末廣	農業と經濟	二月
北支農業の概観	水野 太	〃	〃
北支農村の社會的經濟機構	大上末廣	〃	〃
北支羊毛は我國にとれ	記 者	ダイヤモンド	二月(二)
滿支農業を動かすものは誰か	川村和嘉治	農業と經濟	二月
滿鐵か興中公司か	黒木 和夫	實業之世界	二月(二)
棉花をめぐる統制諸問題	記 者	國際經濟週報	二月(二)

列國の支那に於ける貿易の趨勢	記	中外財界	一〇月
列國の對支經濟戰	濱田峯太郎	改	一〇月臨時
わが在華紡の現勢	記	紡績と經濟	一〇月
我が在支經濟權益の研究(一)	樋口弘	ダイヤモンド	一〇月(二)
〃	久土末	〃	一〇月(三)
鮎川の滿洲進出	安倍楠太郎	中央公論	三月
「金」の國有を即時斷行せよ	三宅實晴六輝	〃	〃
經濟的制裁論	有澤廣己	改	二月臨時
經濟的に見たる北支	木村増太郎	創	二月
經濟封鎖されたら日本はどうなる?	勝田貞次	講演の友	一〇月下旬
顧維鈞の經濟論を評す	青木正得三	外交文時報	二月下旬
工業立地より見たる北支經營	大河内正敏	東洋經濟新報	一〇月(五)
國際收支の調整と圓爲替の前途	金原賢之助	經濟情報	二月(二)
財界指導部のイデオロギ	石田三郎	自由	三月
搾取に喘ぐ北支農民	木村實太郎	エコノミスト	二月(二)

支那を操る英米財閥の正體	朝比奈克彰	世界知識	三月
支那を舞臺に活躍する實業家	平定保	話	〃
支那開發の國際相剋線	蠟山政道	改	二月臨時
支那金融對策と滙劃	筑後三郎	銀行總典	二月
支那經濟の實情と對支政策の再檢討	東	解剖時代	三月
支那抗機力の檢討	東	エコノミスト	二月(二)
支那航運業の現勢	松本良雄	支那	〃
支那財政の隨觀	鈴木三星	經濟展望	〃
支那事變と財界及政界	外務省情報部	官報週報	二月(三)
支那事變と日貨排斥の風潮	木村増太郎	商工之日本	〃
支那事變の推移と投資方針に就て	瀬戸健助	紡績經濟	〃
支那事變の發展と支那財界の展望	宇都宮希洋	大亞細亞主義	〃
支那に於ける英米資本と兩國の對日態度の將來			
支那に於ける國際猶太財閥の活躍			

支那に於ける戰時金融及財政問題	工藤 幸 劍	東亞時報	三月
支那に於ける列國の權益及投資	木村 増太郎	貿易	二月
支那に踊る英國資本	石田 達 雄	國際經濟週報	二月三
支那の財政と農民生活	木村 増太郎	帝國農會報	二月
支那の財政經濟と長期抗日戰	布 利 秋	外交時報	二月上旬
支那の致命的戰費	岡崎 三 郎	經濟知識	三月
支那の民族資本	重 松 清 行	改 造	二月臨時
支那背後の財閥と我覺悟	東 井 金 平	日本及日本人	二月
支那幣制の耐戰力	小 島 榮 次	エコノミスト	三月三
支那幣政は崩壞するか	藤 岡 啓	ダイヤモンド	三月三
資源問題考究の若干の基礎	川 島 篤	汎 交 通	三月
時局下滿鐵及滿洲經濟の新使命	川 島 篤	東洋經濟新報	三月
上海の經濟的重要性	川 島 篤	東洋經濟新報	二月三
上海の我が被害總額	森 崎 實	ダイヤモンド	二月二
新國策會社を現地に見る	森 崎 實	經濟知識	三月

新生北支の開發大綱	十 河 信 二	ダイヤモンド	二月三
生産資源か戰爭資源か	A. Plummer	綜合科學	三月
浙江財閥の今後	岩 村 協 三	改 造	三月
戰火の中の在支紡近況	小 寺 純	紡 織 交 經 濟	二月
戰果全收と財政調整	阿 部 賢 一	改 造	三月
戰後の世界經濟恐慌と最近の經濟循環	E. ヴァアルガ	財政經濟時報	二月
戰時財政の諸問題	塚 田 一 甫	エコノミスト	二月二
戰時財政の新段階	高 木 壽 一	文 藝 春 秋	二月臨時
戰時産業統制の發展と國民生活の問題	小 島 精 一	社會政策時報	二月三
戰時資金調整の意義と運用	金 原 賢 之 助	エコノミスト	二月二
戰時體制の進展とその前途	岩 井 良 太 郎	東 大 陸	三月
戰時貿易政策の檢討(下)	齋 藤 榮 三 郎	社會及國家	二月
戰爭と國策會社研究	津 田 政 男	經 濟 知 識	三月三
戰爭と支那財政	津 田 政 男	紡 織 經 濟	二月三
ソ聯極東地方の經濟建設	津 田 政 男	評 論	三月

大戰當時の貿易制限政策

大陸經濟建設の風向

長期戦下に於ける日本經濟の基本的方面

統制經濟機構論

日産大陸移駐と解消の意義

日産登場の意義と新使命

日産の大陸移駐

日産の大陸進出と滿鐵改組の行方

日産の滿洲移駐を繞る諸問題

日産の滿洲進出の批判と分析

日産の滿洲大陸移駐と今後

日支經濟關係

日支事變と支那產業界

日本經濟の全面的統制

日本は何故北支が大事か(資源解説)

榎崎敏雄

外交時報

二月下旬

伊藤好道

エコーミスト

二月(三)

加藤泰哲

商工經濟

二月

岩井貞太

中外大財界

二月(三)

金原實之

經濟知識

三月(一)

和田日出吉

經濟知識

三月(一)

小島精一

改

三月(一)

中野健次

國際經濟週報

二月(三)

木村健

解剖時代

三月(一)

高梨信藏

カレントヒストリー

二月

浦田照男

況

二月

高木陸郎

時

二月

小島精一

文藝春秋

三月(一)

井上謙吉

力之日本

二月(三)

敗戦下の支那金融界

北支開發をどうするか(一)(二)

北支開發工作への示唆

北支開發と洋灰會社

北支開發のトップ鐵と電力の具體案成る

北支開發プラン一覽表

北支經濟開發を等閑視するな

北支經濟開發を繞る財界論争

北支經濟開發を繞る相剋

北支經濟開發私見

北支經濟開發とその必要性

北支經濟開發の指針

北支經濟開發の腹案を訊く

北支經濟開發の方式

北支經濟建設の動向

内藤熊喜外三氏

經濟情報

二月(二)

高梨信義

ダイヤモンド

二月(三)

我

ダイヤモンド

二月(三)

湖本純正

電氣工學

二月

春

經濟知識

三月

提

拓殖情報

二月(三)

(提)

經濟情報

二月(三)

永田八郎

產業組合時報

二月

山崎靖純

評論

二月

橋英雄

カレントヒストリー

二月

高木陸郎

實業之日本

二月下旬

木村増太郎外五氏

經濟情報

二月(三)

野崎龍七

東洋

二月(三)

藤田岡

エコーミスト

二月(三)

北支經濟研究	津田信吾外二氏	財政	二月
北支經營の基本的態度	(社説)	東洋經濟新報	二月五
北支經濟の新展望	日笠芳太郎	外交時報	二月上旬
北支資源とその開發	高木謙	中外財界	二月
北支資源とその開發策	高木謙	經濟時報	代
北支資源のブロック的意義	松井清	いのち	三月
北支戰況と北支經濟	池田純久	財政聯合報	二月
北支に於ける復興の機運	(在天津記者)	東洋經濟新報	二月五
北支の經濟は如何に開發せらるべきか	野崎龍七	ダイヤモンド	二月三
北支の貨幣問題	春野薫	政界往來	三月
北支の氣候と農業	脇水鉄五郎	科學畫報	三月
北支の資源物語	井上謙吉	現トヤモンド	三月
北支の石炭資源	高木陸太郎	ダイヤモンド	二月二
北支は如何に經營すべきか(二)	木村増太郎	新興經濟	二月三
滿洲戰時經濟の新なる方向	伊藤好道	財政經濟時報	三月

滿鐵後退の意義

〃

文藝春秋 三月

滿鐵と興中公司

〃

改造 二月臨時

明朗北支の要望する事業と人物

小林幾次郎

實業之日本 二月下旬

安川雄之助氏に北支經濟工作を訊く

東洋經濟新報

二月三

野口遵氏に大陸の事業を訊く

ダイヤモンド

一月三

吾が戰費支出能力の限度

野田豊文

文藝春秋 二月臨時

我財政轉機と北支經濟建設の段階

大口喜六

東邦經濟 二月

支那の基本的態度	藤田信吾	二月
支那の発展	長谷川幸太郎	二月
支那の政治	中野實	二月
支那の経済	藤田純久	二月
支那の文化	大田喜六	二月
支那の教育	大田喜六	二月
支那の外交	大田喜六	二月
支那の軍事	大田喜六	二月
支那の歴史	大田喜六	二月
支那の地理	大田喜六	二月
支那の民族	大田喜六	二月
支那の宗教	大田喜六	二月
支那の言語	大田喜六	二月
支那の文学	大田喜六	二月
支那の美術	大田喜六	二月
支那の音楽	大田喜六	二月
支那の演劇	大田喜六	二月
支那の映画	大田喜六	二月
支那の新聞	大田喜六	二月
支那の雑誌	大田喜六	二月
支那の書籍	大田喜六	二月
支那の教育	大田喜六	二月
支那の政治	大田喜六	二月
支那の経済	大田喜六	二月
支那の文化	大田喜六	二月
支那の教育	大田喜六	二月
支那の政治	大田喜六	二月
支那の経済	大田喜六	二月
支那の文化	大田喜六	二月

文化、思想關係

支那の教育の現状
書名 著者 雑誌 名 卷號 月日

近代中國の全貌(文化)
藤枝丈夫 自發春秋 九月

北支事變と北京文化
御手洗辰雄 文藝春秋 八月臨時

怖るべき抗日教科書の内容
佐藤 大亞細亞主義 九月

武力膺懲と思想工作
實藤 東亞大陸 二月

抗日思想戦線の強化
永井 科學知識 〃

北京の大學
支那時報 九月

國民政府排日教育の正體を暴く
支那時報 九月

軍事膺懲と併行すべき「對支文化工
支那時報 九月

作」速行の急務
支那時報 九月

支那事變の思想的背景
大久保弘一 日本評論 二月

事變の意義と攻勢思想戦
上領一郎 原日評論 二月

北支工作の文化的基礎
蠟山政道 日本評論 二月

對支文化工作の基礎づけ
伊藤力甫 宗教公論 二月

文化、思想關係

抗日支那インテリは何を考へてゐるか	後藤和夫	中央公論	二月臨時
思想宣傳機關の統制強化に就て	齊藤隆而	原理日本	二月
思想戰と大學	瀨川次郎	社會往來	二月
支那佛教徒に與ふ	高神覺昇	眞本理	二月
赤化に抗する支那回教徒	笠間杲雄	改造	二月臨時
支那抗日教育の眞貌	岡野龍造	帝國教育	二月
支那國民と排日教育	北郷爲雄	邦人一如	二月
對支思想策戰、三民主義爆破	鹿子木員信	大亞細亞主義	二月
孔教と三民主義	鹽谷溫	現代	三月
支那の文化人は今何をしてゐるか	平山弘	改造	二月臨時
支那の民族性	清水泰次	科學知識	二月
支那文化人の動向	阪本徳松	文藝春秋	二月臨時
北京文化の再建設	橋川時雄	改造	二月
支那排日教育の背景	布川靜淵	帝國教育	二月

交通、通信關係

支那の公路建設概況(上)	東亞經濟調查局	東亞	八月
支那鐵道を中心として	上村茂夫	汎交通	二月
支那の鐵道	山野吉雄	科學と模型	二月
北支五省の交通及通信		東亞	九月
廣東全省交通の調査(一)			二月
廣東、福建兩省の交通及通信施設			二月
北支港灣の概況		東洋經濟新報	二月(三)
現代支那の交通路の狀況に就て(一)	別枝篤彦	地理教育	二月
支那航運業の現勢		東亞	二月
廣東全省交通調査(二)			二月

支那研究の進展
支那の政治情勢
支那の経済情勢
支那の文化情勢
支那の社会情勢
支那の外交情勢
支那の軍事情勢
支那の教育情勢
支那の宗教情勢
支那の風俗情勢
支那の言語情勢
支那の地理情勢
支那の歴史情勢
支那の人口情勢
支那の産業情勢
支那の交通情勢
支那の衛生情勢
支那の法律情勢
支那の行政情勢
支那の司法情勢
支那の外交情勢
支那の軍事情勢
支那の教育情勢
支那の宗教情勢
支那の風俗情勢
支那の言語情勢
支那の地理情勢
支那の歴史情勢
支那の人口情勢
支那の産業情勢
支那の交通情勢
支那の衛生情勢
支那の法律情勢
支那の行政情勢
支那の司法情勢

支那研究の進展

支那研究の進展
支那の政治情勢
支那の経済情勢
支那の文化情勢
支那の社会情勢
支那の外交情勢
支那の軍事情勢
支那の教育情勢
支那の宗教情勢
支那の風俗情勢
支那の言語情勢
支那の地理情勢
支那の歴史情勢
支那の人口情勢
支那の産業情勢
支那の交通情勢
支那の衛生情勢
支那の法律情勢
支那の行政情勢
支那の司法情勢

人物評論

支那研究の進展
支那の政治情勢
支那の経済情勢
支那の文化情勢
支那の社会情勢
支那の外交情勢
支那の軍事情勢
支那の教育情勢
支那の宗教情勢
支那の風俗情勢
支那の言語情勢
支那の地理情勢
支那の歴史情勢
支那の人口情勢
支那の産業情勢
支那の交通情勢
支那の衛生情勢
支那の法律情勢
支那の行政情勢
支那の司法情勢

事變に躍る支那要人	佐藤安之助	ラジオ講演講座	八月(二)
蒋介石といふ男	吉岡文六	財政經濟時報	八月
蒋介石の腹を探る	長野朗	力之日本	九月
蒋介石論	太田宇之助	自中央公論	〃
二十九軍各領將の傾向、性格を截る	彦坂黒兵衛	事業之日本	八月
排日評論家の横顔	大和田充七	解剖時代	九月
私つき排日煽動家十六人	X. Y. Z.	グラフィック	八月上旬
暴戾二十九軍の將領	高木陸郎	文藝春秋	八月臨時
北支の大立物殷汝耕と語る	小林知治	キンゴン	九月
毛澤東自傳	エドガー・スノー	アジアカ	八月
抗日支那の巨頭列傳	藤枝丈夫	婦人公論	二月
抗日支那要人列傳	龜山龍生	糧本	九月
混亂の中支に蠢く支那要人	記	力之日本	二月
最新支那人物萬華鏡	波多野乾一	中央公論	〃
支那領將の點描	知識眞治	大亞細亞主義	九月

支那知人を憶ふ	竹内夏積	自由	二月
時局に動く支那要人	外務省情報部	官報週報	九月(二)
蒋介石	水野廣徳	中央公論	二月
蒋介石の一面	吉見男助	科學と模型	〃
宋美齡會見記	アワースラー	世界知識	〃
宋美齡行狀記と上海女抗日戰線	高木健夫	モダン日本	二月臨時
對支外交の第一線に立つ日高參事官	白鳥祐吉	雄辯	二月
駐支大使川越茂論	阿部眞之助	經濟マガジン	九月
通州事變直後の殷汝耕會見記	正山國太	事業之日本	〃
日支をつなぐ旅、ペファア教授	梓木長彦	グラフィック	九月上旬
排日の巨頭馮玉祥の日記	井上謙吉	朗	二月
ブリッヘルと蒋介石	久野豊彦	サンデー毎日	九月(三)
暴慢支那の各巨頭を剔る	皆見良雄	經濟市場	九月
問題の支那三人男(蔣、宋、殷は何處へ行く?)	佐々木盛雄	現代人論	二月
私の見た支那の將領	パール・バック	婦人公論	〃

抗日戦線に躍る支那軍將領の横顔	井上謙吉	實業之日本	二月下旬
支那事變の裏面に躍る宋家三姉妹	武藤貞一	主婦之友	二月
支那要人印象記	清水董三	中央公論	二月臨時
自叙傳(毛澤東)	八田有造	〃	二月
宋美齡を暴く	芝田四十二	ホームライン	〃
宋美齡と宋慶齡	水木兩作	實業之日本	二月上旬
大アジア主義と松井大將	中山城太郎	人業の日本	二月
人間蔣介石	菊池良一	事業之日本	二月
北支の自治を護る三人男江朝宗、高凌霨、池宗墨	彦坂黒兵衛	〃	〃
毛澤東自叙傳	E. スノ	改	二月
毛澤東と馮玉祥	村田孜郎	海と空	二月
問題の山東の雙龍韓復榘と沈鴻烈	高木陸郎	事業之日本	二月
陸士出身の支那要人たち	田中惣五郎	改	二月臨時
川越大使の心境	北村洋一	〃	三月
吳佩孚訪問記	岡野増次郎	〃	〃

支那抗日第一線に躍る人々	吉岡文六	實業之日本	二月下旬
宋美齡と三民主義	松本學邦	人業一如	二月
中國共産黨毛澤東論	小島六郎	人の噂	三月
南京に躍る第二級中樞人物群像	田中香苗	東洋	二月
我的生活	馮玉祥	中央公論	三月
亡命支那人の母、宮崎滔天未亡人に	宮崎櫃子	主婦の友	〃
蔣介石夫妻の想ひ出を聴く	〃	〃	〃

新編 支那の歴史 一巻 支那の歴史の概観 二月下旬
 支那の歴史 二巻 支那の歴史の概観 二月下旬
 支那の歴史 三巻 支那の歴史の概観 二月下旬
 支那の歴史 四巻 支那の歴史の概観 二月下旬
 支那の歴史 五巻 支那の歴史の概観 二月下旬
 支那の歴史 六巻 支那の歴史の概観 二月下旬
 支那の歴史 七巻 支那の歴史の概観 二月下旬
 支那の歴史 八巻 支那の歴史の概観 二月下旬
 支那の歴史 九巻 支那の歴史の概観 二月下旬
 支那の歴史 十巻 支那の歴史の概観 二月下旬
 支那の歴史 十一巻 支那の歴史の概観 二月下旬
 支那の歴史 十二巻 支那の歴史の概観 二月下旬
 支那の歴史 十三巻 支那の歴史の概観 二月下旬
 支那の歴史 十四巻 支那の歴史の概観 二月下旬
 支那の歴史 十五巻 支那の歴史の概観 二月下旬
 支那の歴史 十六巻 支那の歴史の概観 二月下旬
 支那の歴史 十七巻 支那の歴史の概観 二月下旬
 支那の歴史 十八巻 支那の歴史の概観 二月下旬
 支那の歴史 十九巻 支那の歴史の概観 二月下旬
 支那の歴史 二十巻 支那の歴史の概観 二月下旬

歴史、地理關係

南支の歴史 一巻 支那の歴史の概観 二月下旬
 南支の歴史 二巻 支那の歴史の概観 二月下旬
 南支の歴史 三巻 支那の歴史の概観 二月下旬
 南支の歴史 四巻 支那の歴史の概観 二月下旬
 南支の歴史 五巻 支那の歴史の概観 二月下旬
 南支の歴史 六巻 支那の歴史の概観 二月下旬
 南支の歴史 七巻 支那の歴史の概観 二月下旬
 南支の歴史 八巻 支那の歴史の概観 二月下旬
 南支の歴史 九巻 支那の歴史の概観 二月下旬
 南支の歴史 十巻 支那の歴史の概観 二月下旬
 南支の歴史 十一巻 支那の歴史の概観 二月下旬
 南支の歴史 十二巻 支那の歴史の概観 二月下旬
 南支の歴史 十三巻 支那の歴史の概観 二月下旬
 南支の歴史 十四巻 支那の歴史の概観 二月下旬
 南支の歴史 十五巻 支那の歴史の概観 二月下旬
 南支の歴史 十六巻 支那の歴史の概観 二月下旬
 南支の歴史 十七巻 支那の歴史の概観 二月下旬
 南支の歴史 十八巻 支那の歴史の概観 二月下旬
 南支の歴史 十九巻 支那の歴史の概観 二月下旬
 南支の歴史 二十巻 支那の歴史の概観 二月下旬

日支關係の歴史的考察

北支黄土地域に於ける戦争の地形的考察

北支戰場地理概説

北支の氣候と風土

北清事變より北支事變

偉大なる土工「萬里の長城」

黄土と石炭

日支事變の地理學へ及ぼす影響

山西從走記

外蒙古探査八ヶ月

現代支那の交通路の状況に就て(一)

萬里の長城

鈴木俊外六氏 歴史公論 九月
 小川琢治 地理教育 九月
 布田利三 秋 地理學 九月
 七里重慶 ラヂオ講演講座 八月(二)
 太田宇之助 科學と模型 二月
 丹野元東 科學と模型 二月
 佐藤弘 科學畫報 九月
 田口稔 地理學 二月
 小林伍一郎 地理學 二月
 池田克巳 中央公論 二月
 別林篤彦 地理教育 二月
 藤島亥二郎 週刊朝日 二月(五)

北支住民は果して漢人種なりや

今岡十二郎

大亞細亞主義

一〇月

北支戦線地誌

記 林 龍 者

國史教育

〇月

民國近世革命史

吉岡文六

中央公論

〇月

今様北支風土記(直隸省の卷)

竹内五夏

積文藝叢春秋

三月

内蒙古の南方を往く

布利秋

旅

〇月

廣東全省交通調査(二)

記 者

東學畫亞

二月

近代史より見たる日支關係

植田捷雄

支學と對那

〇月

支那事變と進化史觀

杉森孝次郎

帝國教育

〇月

支那事變と歴史學會

秋山謙藏

歴史公論

三月

支那事變の歴史的考察

太田三郎

帝國教育

二月

支那とはどんな國か(地理的解説)

記 者

デール

三月

支那の地理學の見方

田木口六稔

〇月

〇月

占據爆撃地點概觀

井上謙吉

東洋

二月

天子教と紫金城

伊東忠太

グラフィック

二月下旬

南支の戦跡を辿つて

村田孜郎

旅

三月

歴史、地理關係

日清戦争と福澤諭吉
白人の植民地侵略史
北支雜感(概觀、都市、交通其他)
北支の古蹟と名勝

小泉信三 改 造 三月
早川二郎 文藝春秋 二月臨時
脇水鐵五郎 汎交 通 二月
一氏義良 世界知識 三月

0130
33
37173

支那の歴史は是して漢人の歴史である

支那の歴史

支那の歴史

支那の歴史(支那の歴史の巻)

支那の歴史(支那の歴史の巻)

支那の歴史(支那の歴史の巻)

支那の歴史(支那の歴史の巻)

支那の歴史(支那の歴史の巻)

支那の歴史(支那の歴史の巻)

支那の歴史(支那の歴史の巻)

支那の歴史(支那の歴史の巻)

支那の歴史(支那の歴史の巻)

支那の歴史(支那の歴史の巻)

支那の歴史(支那の歴史の巻)

支那の歴史(支那の歴史の巻)

支那の歴史(支那の歴史の巻)

支那の歴史(支那の歴史の巻)

0310
33
37113

今 藤 士 一 部 太 正 新 刊 本 二 月

記 田 本 著 史 教 育 二 月

森 田 本 著 史 教 育 二 月

竹 内 本 著 史 教 育 二 月

布 利 著 史 教 育 二 月

記 田 本 著 史 教 育 二 月

核 田 本 著 史 教 育 二 月

杉 本 著 史 教 育 二 月

秋 山 著 史 教 育 二 月

太 田 著 史 教 育 二 月

記 田 著 史 教 育 二 月

田 本 著 史 教 育 二 月

田 本 著 史 教 育 二 月

田 本 著 史 教 育 二 月

田 本 著 史 教 育 二 月

田 本 著 史 教 育 二 月

田 本 著 史 教 育 二 月

田 本 著 史 教 育 二 月

田 本 著 史 教 育 二 月

田 本 著 史 教 育 二 月

田 本 著 史 教 育 二 月

田 本 著 史 教 育 二 月

田 本 著 史 教 育 二 月

田 本 著 史 教 育 二 月

田 本 著 史 教 育 二 月

田 本 著 史 教 育 二 月

田 本 著 史 教 育 二 月

田 本 著 史 教 育 二 月

田 本 著 史 教 育 二 月

田 本 著 史 教 育 二 月

田 本 著 史 教 育 二 月

田 本 著 史 教 育 二 月

田 本 著 史 教 育 二 月

田 本 著 史 教 育 二 月

田 本 著 史 教 育 二 月

田 本 著 史 教 育 二 月

田 本 著 史 教 育 二 月

田 本 著 史 教 育 二 月

田 本 著 史 教 育 二 月

田 本 著 史 教 育 二 月

田 本 著 史 教 育 二 月

田 本 著 史 教 育 二 月

田 本 著 史 教 育 二 月

田 本 著 史 教 育 二 月

田 本 著 史 教 育 二 月

0310
33

37113

